

私たちの金沢大学

2021

大学を支えてくださるみなさまに「大学の今」を紹介します



令和2年度 主な行事等



◆金沢大学の出来事◆

◆コロナ禍における社会の対応◆

4月	1日:融合研究域設置 1日:金沢大学深圳事務所(金沢大学環境・エネルギー技術及び政策国際連携研究教育拠点)開設 20日:第1クォーター遠隔授業開始(～6月18日)	16日:全国緊急事態宣言 17日:政府が布マスク配布を開始
5月	8日:金沢大学緊急学生支援金制度の創設 <small>☞P.7</small>	14日:石川県緊急事態宣言解除 25日:緊急事態宣言全国で解除
6月	1日:名誉教授称号記授与式 19日:第2クォーター一部対面授業開始(～8月18日)	19日:都道府県をまたぐ移動の全面解除
7月		22日:「Go to トラベル」キャンペーン開始(東京都除外)
8月	6日:大学の世界展開力強化事業 <small>☞P.18</small> 「金沢大学ロシア同窓会」事務所開所 9～10日:金沢大学 Web キャンパスビジット 2020	
9月	1日:金沢大学医薬保健研究域附属 AI ホスピタル・マクロシグナルダイナミクス研究開発センター設置 28日:9月期学位記授与式 30日:ナノ生命科学研究所新棟竣工 <small>☞P.9</small>	
10月	1日:第3クォーター対面授業開始(～12月1日) 24日:金沢大学コンテスト(第3回超然文学賞)表彰式 26～27日:金大祭 31日:ホームカミングデイ・留学生ホームカミングデイ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">10月～11月 土日祝</div>	1日:東京都発着に「Go to トラベル」キャンペーン適用
11月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">秋季キャンパスビジット 2020</div>	26日:大都市で時短・休業要請
12月	5日:令和3年度特別選抜入試(KUGS, 超然等) 8日:第4クォーター授業開始(～2月12日) 8日:株式会社ダイセルと「新産学協働研究所(仮称)」整備等に関する覚書を締結 <small>☞P.13</small>	28日:Go to トラベルを全国一斉停止
1月	16～17日:大学入学共通テスト(30～31日:追試験)	7日:緊急事態宣言(東京都, 埼玉県, 千葉県, 神奈川県)
2月	21～23日:文理系総合企業研究会(合同セッション) 22日:羽咋市と包括連携協定を締結 25～26日:令和3年度一般選抜入試(前期日程)	17日:ワクチン国内接種を開始
3月	2～5日:文理系総合企業研究会(個別セッション) 13～17日:日本留学海外拠点連携推進事業 日本留学・就職フェア(タイ) 16日:中小企業基盤整備機構北陸本部と包括連携協定を締結 22日:学位記・修了証書授与式 23日:金沢大学コンテスト(日本数学 A-lympiad) 表彰式 29日:立教大学と「連携・協力に関する協定」を締結	21日:緊急事態宣言解除(東京都, 埼玉県, 千葉県, 神奈川県)

目次

学長メッセージ／金沢大学の未来に向けた取り組み	P2
YAMAZAKIプラン 2020 Next Stage	P3
教育の特色ある取り組み	P4-6
特色ある大学院教育	P6
“With コロナ”教育環境の特色ある取り組み	P7
附属学校園の特色ある取り組み	P8
研究の特色ある取り組み	P 9-12
産学連携	P12-13
附属病院の特色ある取り組み	P14
社会貢献の特色ある取り組み	P15-16
留学・国際交流の状況	P17-18
学習支援	P19
経済支援	P19-20
進学・就職状況	P21
入試情報	P22-23
財務状況	P24-25
施設整備	P26
ガバナンス体制／金沢大学国際賞／その他	P27
附属図書館／資料館	P28
同窓会／金沢大学基金	P29

金沢大学校歌

作詞 室生犀星
作曲 信時 潔

あま 天うつなみ けぶらひ
あま 天そそる 白ねの
ほくほう 北方のみやこに学府のありて
さん 燦たる燈をかかげたり
人は人をつくるため
のろしをあげ
えいち 慧智の時間を磨く
はえ 栄光ある人間をつくらむと
しんふうぶんか 新風文化の扉は開かれ
あたらしの人 世代にあふれ
手はつながれ 才能は結ばれ
こぞりてわが学府につどへり
こぞりてわが学府につどへり

学長メッセージ

皆が頑張る、地域に愛され、世界に輝く金沢大学の実現を目指し

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むことを金沢大学憲章で掲げています。世界と伍して卓越した教育研究を展開する「世界卓越型」大学を目指し、令和4年度から始まる第4期中期目標期間を見据えた取り組みを、全学を挙げて加速させています。

教育組織改革については、令和3年4月に文理融合型の新学域「融合学域」を新設し、その第1番目の学類である先導学類や医薬保健学域医薬科学類が始動しました。さらに、時代や社会のニーズに応えるべく、融合学域における新たな学類の創設や大学院の高度化といった具体的な計画も進展しています。

研究力強化では、世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）拠点を誇るナノ生命科学研究所（NanoLSI）を筆頭に、本学発の世界的な研究拠点の形成を牽引するフラグシップ研究所群が、研究成果の創出、そして未来社会の創造に向けて分野融合研究を推進しています。

また、コロナ禍によりモビリティが大きく制限される中でも、国際化、グローバル人材の育成を重要な柱と掲げ、スーパーグローバル大学創成支援事業や大学の世界展開力強化事業等を通じて、オンラインを活用した新たな国際交流プログラムを展開しています。

未だ終息の兆しが見えない厳しいコロナ禍において、社会のあらゆる分野でDX（デジタルトランスフォーメーション）の波が押し寄せています。我が国の国際競争力向上や地方創生に果たす国立大学の役割への期待がますます大きくなる中、この変革を好機と捉え、皆様と共に手を携えて、大学教育、研究及び社会共創をより積極的なアクティビティに変化させていきたいと思いをします。



学長 山崎 光悦

金沢大学の未来に向けた取り組み

コロナ禍により、日本そして世界を取り巻く環境が劇的な変革期を迎える中、金沢大学憲章に謳う「21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資する」役割を果たし続けることを本学の責務とし、**イノベーションを起こし、ゲームチェンジを先導するための教育・研究**を展開します。

教育組織改革

文理融合による社会変革人材を養成する**融合学域**

○**先導学類** 令和3年4月新設

複雑化・多様化する未来の社会課題に対応できる文理融合の知識とアントレプレナーシップ等、社会での実践力を併せ持つ「社会変革を先導するリーダー」を養成します。

○**観光デザイン学類(仮称)** 令和4年度設置構想中

文理融合の多様な知見を活用し、Society5.0やニューノーマルに対応し、国際観光立国を見据えた我が国の新たな観光価値をデザインできる人材の養成を目的とする「観光デザイン学類(仮称)」を準備中です。



研究力強化

ニューノーマル時代を牽引する**世界的研究拠点**

○**高度モビリティ研究所** 令和3年4月新設

自動運転にかかる技術の高度化・拡充化を図るとともに、地域経済学、都市工学、社会医療学などとの融合研究を推進し、次世代モビリティ社会の実現を目指します。

○**新産学協働研究拠点(仮称)** 令和4年度設置予定

脱石油、脱炭素社会の実現を見据え、令和2年12月、株式会社ダイセルと「新産学協働研究所(仮称)の整備等に関する覚書」を締結しました。本学と株式会社ダイセルのみならず、関連する多くの民間企業や大学、研究機関と連携し、産学連携を強力に推進するバイオマス研究の世界的拠点形成を目指します。

YAMAZAKI プラン 2020 Next Stage

本学では、全学的な大学改革プランとして策定した「YAMAZAKI プラン 2014」を改革のエンジンとしつつ、2度にわたり発展的に同プランを見直し、様々な改革を推進してきました。

一方、社会の動向に目を向けると、我が国の国際競争力の強化や地方創成に向けた国立大学の責務が大きくなっています。さらに、終息の兆しが見えないコロナ禍の中、第4次産業革命や Society5.0 の実現に向けた社会システムの変革が今まで以上に加速しています。

このような情勢を踏まえ、本学は中長期的な視野に立ちながら社会システムの変革に即応し、持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出すため、以下の施策を掲げた「YAMAZAKI プラン 2020 Next Stage」を令和2年6月に策定し、公表しました。

2014年に策定して以来、社会情勢の変化や各種計画の進捗状況を踏まえ、行動計画を再整理しながら大学改革を進めてきましたが、本年はYAMAZAKIプランの総仕上げの年として、令和4年度から始まる第4期中期目標期間を見据え、自主的・自律的な大学改革を一層加速させています。

戦略1 研究の先鋭化と新たな強みとなる新領域・融合分野の創出による世界的研究拠点の形成

Vision I 先進的・独創的研究の推進と基礎研究分野の堅持

Vision II 研究力強化に向けた環境整備

- ・世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）推進研究拠点（NanoLSI）や共同利用・共同研究拠点、研究所、新学術創成研究機構、研究域附属研究センター等における組織的な研究活動を先鋭化し、国際的な研究拠点を形成

戦略2 グローバル社会の中核的なリーダーとして活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成

Vision III 大学院教育の高度化と国際化

Vision IV 学士課程教育改革とイノベーション人材の育成

Vision V 新たな価値を創造する人材の育成に向けた高大接続改革と入試制度改革

Vision VI 徹底した学生支援

- ・ポストコロナを見据えた、社会変革・科学技術の進展に応じた融合学域の設置等による学士課程の教育組織改革や、自然科学研究科における専攻の再編等による大学院課程の組織改革
- ・卓越大学院プログラムの先導による大学院教育の高度化・国際化や、数理・データサイエンス教育の充実等による教育の質的転換等、高度で良質な人材育成のための教育プログラム改革

戦略3 国際的な連携ネットワークの形成と頭脳循環の推進

Vision VII 国際協働ネットワークによる教育・研究活動における高度なモビリティの推進

- ・世界トップレベル大学等との組織対組織の連携基盤を強化し、国際競争力のある交流ネットワークを形成

戦略4 世界と地域との環流による社会貢献・社会実装

Vision VIII 大学をハブとしたオープンイノベーションの推進

- ・金沢大学が有するリソースを産業、地域振興、行政、人材育成、医療等、社会のあらゆる領域に還元し、多様なセクターとの実効的な社会共創を一体的に推進

戦略5 積極的なガバナンス改革による戦略的マネジメントの推進

Vision IX 機能強化を推進する大学運営と戦略的な財政運営

Vision X 機能強化に向けた戦略的な教育研究環境の整備

- ・教育研究機能を最大限に発揮するため、ガバナンス体制をさらに強化するとともに、財政計画に基づく支出の見直しや効果的な資金配分、外部からの投資資金の獲得拡大による財政基盤を強化
- ・ナノ生命科学研究棟の建設等、教育研究組織の態様に応じた施設マネジメントを実施

戦略6 高度臨床研究の展開と中核的な医療拠点としての機能強化に向けた附属病院改革の推進

Vision XI 臨床研究の推進と先進的医療を担う人材の育成

Vision XII 地域中核病院としての機能強化

- ・先進医療・医師主導治験や医療従事者に対する専門教育・リカレント教育等を推進するとともに、地域の中核病院として関連病院との連携体制の更なる強化を推進

教育の特色ある取り組み

学域学類制

本学では、学生一人一人の成長を無理なく促して、社会に必要とされる能力を身に付けさせるため柔軟な進路選択に適した教育のしくみを用意しています。

「学域・学類」という幅広い枠組みでの入学

入学の基本的な単位は「学域・学類」であり、他大学のような「学部・学科」より、幅広く大きな枠組みで学びをスタートできます。そこで学びの基礎を固めつつ、自分が本当にやりたいテーマを探ることができるため、入学するときに何を自分のテーマにするか、必ずしも決め込む必要がありません。

〔注：機械工学類、フロンティア工学類及び電子情報通信学類は3学類一括入試、保健学類は専攻単位で、かつ理学・作業療法学専攻は併願入試〕

基礎を学んでから専門領域を決める「経過選択制」

人間社会学域や理工学域では主に2年次に、一人一人が自分の志望や適性に合わせて専門領域（コースやプログラム等）を決めます。文系・理系一括入試では、学類の選択を1年次後期に行います。この「経過選択制」によって、基礎基本を学びながら、ゆっくりじっくり、自分のテーマを選ぶことができます〔注：医学類と保健学類は資格取得の関係で導入せず〕。また、入学後に異なる学問分野に興味を持った場合は、「転学類・転コース制度」により進路変更することも可能です。

学類再編

平成20年度の学域学類制への再編改組から10年以上が過ぎ、これまでの教育実績等を検証し、機能強化を図るため教育組織や入学者選抜等の改革を計画的に進めています。本学の強みを活かし時代の要請に応えるべく学類の再編を行い、学域・学類のダイナミックな交流の下、未来志向の研究に積極的に取り組み、より質の高い学びを提供していきます。

令和3年4月には、平成20年度の学域学類制導入以降、初めて新学域〔融合学域〕を設置し、第1番目の学類として「先導学類」を創設、4学域18学類での教育を開始しました。

金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS) に「基準6」新設

世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材育成のため、本学独自の教育方針「金沢大学<グローバル>スタンダード」を定めています。令和3年度には、これまでの5つの基準に加え、Society5.0に向けて必要な能力を身につけることを目的とした基準6を新設しました。

6つのスタンダード

各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備えた人材を育成します。

金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)

基準1	基準2	基準3	基準4	基準5	基準6
自己の立ち位置を知る	自己を知り、自己を鍛える	考え・価値観を表現する	世界とつながる	未来の課題に取り組む	新しい社会を生きる
鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力	自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力	論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力	他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土の文化への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力	科学技術の動向、自然環境変動、持続可能性などの多角的視座から地球と人類、国際社会と日本の未来を総合的に予測し、未来の課題に取り組んでいく能力	来るべきSociety5.0に向けて、デジタル情報を論理的に、さらには論理を超越して分析し、需要を俯瞰的に調査し、情報通信技術や人工知能を使い熟し、社会的課題の解決を目指す能力

新設

国際基幹教育院「共通教育科目のGS科目に第6群開講」

基幹教育を強固に推進することによって、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引することを目的として、平成28年度に国際基幹教育院を設置しました。本教育院に専任教員を配置し、「GS教育系／部門」、「外国語教育系／部門」に、「国際教育部門」及び「リメディアル・基礎教育部門」を加えた2系・4部門を編成し、体系的な教育研究活動を行っています。

また、Global Standard (GS) 科目として、KUGSの各基準の能力を獲得するための科目群を設定しています。令和3年度からは基準6の新設に伴い、新たに第6群の5科目を開講します。

さらに、全てのGS科目にアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生の自学自習を促しています。

平成30年度からは本教育院のもとに総合教育部を置き、「文系一括、理系一括」入試による入学者を受け入れ、学類移行までの1年間、進路・学類選択のサポートを行っています。

多様な学生を幅広く受け入れる革新的な入試改革

入学者の多様性を確保するため、令和3年度入試（令和2年度実施）から、革新的な独自の入試を導入しました。「KUGS特別入試」では、本学が提供するKUGS高大接続プログラム[※]の修了を出願要件とし、基礎的知識・技能を活用して他者と協働しながら夢を実現する強い意欲を持つ人材、「超然特別入試」では、本学が平成30年度に創設した2つのコンテスト、日本数学A-lympiad（卓越した数学と英語の力を持った高校生がチームで挑戦）、超然文学賞（「言葉の力」「文学の力」で人間の新しい可能性を切り開く能力を評価する文芸作品コンテスト）での入賞を出願要件とし、卓越した才能を持つ人材を選抜します。このほか、後期日程を廃止し、前期日程に「文系一括・理系一括入試」も含めた募集人員を移行して、本学を第1志望とする者の、前期合格の機会を拡大しました。

これらの入試改革により、意欲ある多様な人材を受け入れ、複雑化・多様化する国際社会を牽引する「金沢大学ブランド」のグローバルリーダーを育成します。

※「金沢大学〈グローバル〉スタンダード」の能力が身に付くよう開発した独自の高大接続プログラム

スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業

スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業とは、世界トップレベルの研究を行う大学や国際化を牽引する大学を重点的に支援する文部科学省の事業です。本学は、平成26年度「徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立」をテーマに採択を受けました。東アジアの知の拠点としての機能をこれまで以上に強化するため、国際化に必要な大学改革を進めます。その結果としての10年後の金沢大学の姿を以下の3つで表します。

- ① 独自のグローバル人材育成スタンダードに基づく質の高い教育を提供する大学
- ② 世界で活躍する「金沢大学ブランド」の人材を輩出し、日本のグローバル化を牽引する大学
- ③ 東アジアの地において世界の高等教育研究ネットワークの中核に位置する大学

10年後の目標値	2013年	2019年	2023年
外国人教員及び海外で学位取得・教育研究歴をもつ教員の比率	17.3%	23.8%	50%
全学生に占める外国人留学生の割合	6.9%	11.7%	20%
日本人学生に占める留学経験者の割合	1.7%	→ 6.7%	→ 9.3%
英語による授業〔大学院課程〕	2.9%	42.3%	100%
英語による授業〔学士課程〕	3.8%	21.2%	50%

学生の卒業時の語学レベル（英語）を設定 TOEIC 760点、TOEFL-iBT 80点⇔2023年には全学生の7割が充足目標

※令和3年度入学者から、英語検定試験スコアの卒業・修了要件化を適用します。

教育の特色ある取り組み

融合学域先導学類の始動と新たな学類の設置（設置構想中）※

令和3年4月、文理を問わない幅広い知見と、社会を変革しようとする強い意欲を併せ持つ“社会変革を先導するリーダー”の養成に向けた融合学域先導学類の教育を開始しました。

さらに、令和4年4月の新たな学類設置に向けて準備を進めています。

◆観光に資する新たな価値を創造する「融合学域観光デザイン学類（仮称）」

観光は我が国の産業にとって重要な要素の一つであり、観光立国としての立場を固めつつありましたが、コロナ禍によりその状況が一変しました。今求められているのは、従来の観光を再定義し、その価値をデザインできる人材、さらにそれをニューノーマル時代の新たな基幹産業へと発展させていく人材です。そうした社会の要請を受け、融合学域では令和4年度に「観光デザイン学類（仮称）」の設置を構想しています。本学類では、Society 5.0を始めとする科学技術の進展やSDGs等を視野に入れながら、アントレプレナーシップの醸成や社会との共創を重視し、新たな観光価値をデザインする人材を養成します。



現代的課題に対応できる先駆的教員を養成する「富山大学との共同教員養成課程（設置構想中）」※

人間社会学域学校教育学類は、令和4年4月の発足を目指して富山大学と連携した教員養成課程の共同教育課程設置を構想しています。これは、両大学の教員養成機能を統合して運営する共同教員養成課程とすることで、少子化の進行に伴う教員需要の減少期を迎えている中でも教育の質を落とさないよう、両大学のスケールメリットを背景に、今後も安定的に多校種にわたる教員免許を維持することに加え、さらに、それぞれの大学の特色・強みを融合させることで、複雑・多様化する教育現場や地域のニーズに応え、活躍できる高度な力量をもった教員の養成を行い、未来を担う児童・生徒の育成に貢献することを目指しています。

※設置構想中のため、今後の検討により内容が変更となる可能性があります。

人間力強化プログラム 学長と行く合宿シリーズ ～地域「超」体験プログラム～



己を鍛え、己を磨き続ける学生生活を送るために、仲間と苦楽を共にする環境下で、体力・精神力の重要性と多様な価値観の存在、社会の一員であることの自覚を促すことを目的としています。平成27年度から1単位の正課教育として本格導入しました。アクティブ・ラーニングを取り入れた事前講義を実施し、民泊・坐禅・学長講義・ボランティア活動をプログラムとする合宿を毎年4回（珠洲、小木、白山麓、五箇山）実施しています。

特色ある大学院教育

WPI 拠点と民間企業等で連携して「ナノ精密医学・理工学」卓越人材を養成！

令和元年度に文部科学省の採択を受けた「ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム」は、本学の強みを核に、国内外の大学・研究機関・民間企業などの外部機関と組織的な連携を図り、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫型の博士課程学位プログラムです。令和2年度から16名の大学院学生が履修を開始し、その履修者が早速、石川県産業創出支援機構「スタートアップビジネスプランコンテストいしかわ2020」において、優秀起業家賞と学生賞をダブル受賞しました。



受賞報告の様子

“With コロナ” 教育環境の特色ある取り組み

コロナ
対応

新型コロナウイルス感染症の影響により、授業内容が制約される中であっても、本学では工夫を凝らし、学生にとって安心・安全な教育環境を整備しています。学生も、With コロナに対応しながら、授業に臨む姿が多く見受けられます。その一例を様々な視点からご紹介します。

家計急変学生に対する本学独自の『緊急学生支援金』制度の創設！

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による家計急変等によって、経済的に困窮している学生に、月額5万円を無利子・無保証人で迅速に貸与する制度を令和2年5月に創設しました。アルバイトや仕送りが減り、修学を続けることに不安を抱く学生も多い中、金沢大学基金を原資として支援を行っています。今後も、安心・安全な学生生活が送れるよう、状況に応じた支援を実施していきます。

令和3年3月末
までに
学生延べ996名
に計4,980万円

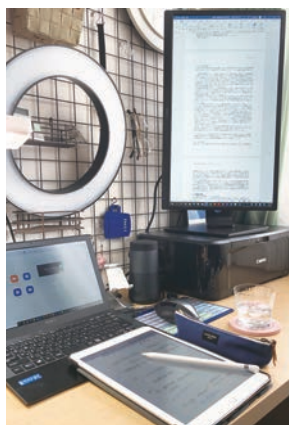


全講義室・約200室での機器整備等を進め、3,700科目を超える遠隔授業を実施しました

教員寄稿：コロナ禍の中で自分の講義を改めた、という話（第83号）

私の前年度までの講義のほとんどは板書形式でした。教科書は指定せず、毎年講義ノートを作成し、それを見ながら板書をしつつ解説するという形式です。このような講義を遠隔授業で行うことは難しいため、講義の方式を抜本的に改めました。（中略）教室で授業をできるようになってからは、事前に文章を読み問題を解いてもらい、教室で授業をする際には（Zoomでも同時中継・録画しています）レジュメに基づき内容を解説する、という形に落ち着きました。

しかしこれって、ものすごく伝統的な「教科書での予習+教室での講義」形式と同じですね。コロナで苦労した結果、ようやく私は伝統の大切さを理解したようです。（法学系 足立英彦教員）



学生寄稿：私の「DX（デジタルトランスフォーメーション）」（第85号）

私は、ノートパソコン・タブレット（+タッチペン）・外付けモニターの3点セットでオンライン授業に臨んでいました。授業では、ノートPCでオンライン講義画面を視聴しながら、タブレットでノートを取っていました。もう一つのディスプレイは、講義資料や、気になった事柄や知らない用語などを検索した画面を表示するのに使用していました。（中略）

タブレットでノートを一元管理することも、メリットが多いと思います。いままで授業レジュメは印刷されたものが配布されていましたが、オンライン授業では自分でダウンロードして印刷しなければなりません。タブレットを使用することにより、ダウンロードのみですぐ書き込みが可能となる他、時間や費用も節約できます。（後略）（法学類3年K.T.）

「法学類月報」より

残量確認不要！手指消毒液の状態通知システムの開発

自然科学研究科棟では、消毒液の交換時期を把握し計画的な在庫補充を行うため、利用者からの通報により消毒液の残量を簡単に確認できるシステムを開発・導入しました。消毒液が設置してある建物内70か所の机にQRコードが添付してあります。気付いた人が、誰でもスマートフォンから読み込み、メール送信するだけで事務室に通知される仕組みです。学生も含め利用率は高く有効です。 【使い方】



(02) 事務室窓口

- ①QRコードをスマートフォンで読み取る。
- ②3つの選択肢（空っぽ、残り僅か、盗難）から選択する。
- ③そのまま送信する。

消毒ボトルの状態
State of the disinfection bottle

消毒液ボトルの状態をお知らせください。

状態 (STATUS) ※

空っぽです (empty)
 もうすぐなくなります (little)
 盗まれています (theft)

場所 (PLACE) ※

(04) 1号館前ロビー

場所は自動で登録されます

送信する

附属学校園の特色ある取り組み

5つの附属学校園が設置されている数少ない総合大学です。

附属幼稚園：里山自然体験活動による資質能力の育成

年長組が年間を通じて稲作や里山探検など、自然体験活動に取り組んでいます。自然インストラクター、農業従事者、研究者、教師が協働し開発した「幼児の自然体験プログラム」を実践する中で、園児は自己決定を繰り返しながら自然と関わり、学びを深め、幼児期に育みたい資質・能力を育てています。



昔ながらの農機具を使い脱穀に挑戦する園児

附属小学校：Society5.0に向けた人材育成～多様性をいかす汎用的能力の育成～

令和3年度は、実践教育研究「Society5.0に向けた人材育成～多様性をいかす汎用的能力の育成～」の研究主題のもと、本校児童にコミュニケーションに関する汎用的能力を育成することを目的として取り組みます。2年目となる今年度も、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくことを目指し、コミュニケーション力をつける授業をどのように設計していくか探求し発信していきます。



話し合いながら課題を解決する児童

附属中学校：STEAM教育による「新たな価値を創造する資質・能力」の育成

平成29年度から、国立教育政策研究所 教育課程研究校（2年間）の指定を受け、全ての教科等で伝統文化教育に取り組み、一人一人の生徒がグローバル社会で生きるために必要な資質・能力を身に付け、自国の文化を愛するとともに、他国の文化を理解・尊重し、平和な世界の形成者となる人材の育成を目指しました。令和3年度からは文部科学省の研究開発校に選ばれ、個別最適化学習やSTEAM教育に取り組み「新たな価値を創造する資質・能力」を育成します。



プログラミングの学習をする中学生

附属高校：WWLコンソーシアム構築支援事業拠点校（3年目）

附属高校は、平成26年度から5年間文部科学省SGH（スーパーグローバルハイスクール）校の指定を受け、その後令和元年度から3年間、文部科学省「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」の拠点校に採択され、今年度は3年目となります。「持続可能な世界を実現し、Society5.0を牽引するグローバル・リーダーの育成」を目標に、金沢大学を管理機関として、北陸圏内の高校、海外の高校、社会との3つのアライアンスを確立し、アドバンスト・ラーニングを促進します。



シンガポールNJCの生徒とオンライン会議を行う高校生

附属特別支援学校：地域協働学習で育む自立と社会参加の力

地域の方との協働活動や他団体との交流及び共同学習、ゲストティーチャーを招聘してプロから学ぶ学習を通じて、児童生徒のキャリア発達を促し自立と社会参加を目指しています。コロナ禍の中、学習活動を通信機器や手作りの新聞を通じて地域に発信するなど工夫して取り組んでいます。また、令和3年度からは研究開発学校の指定を受け、特別支援教育の課題解決に向けた実践研究にも取り組みます。



地域の方と災害時の調理実習をする高等部生

研究の特色ある取り組み

これまで誰もみたことのない生命現象を、観る、そして制御する

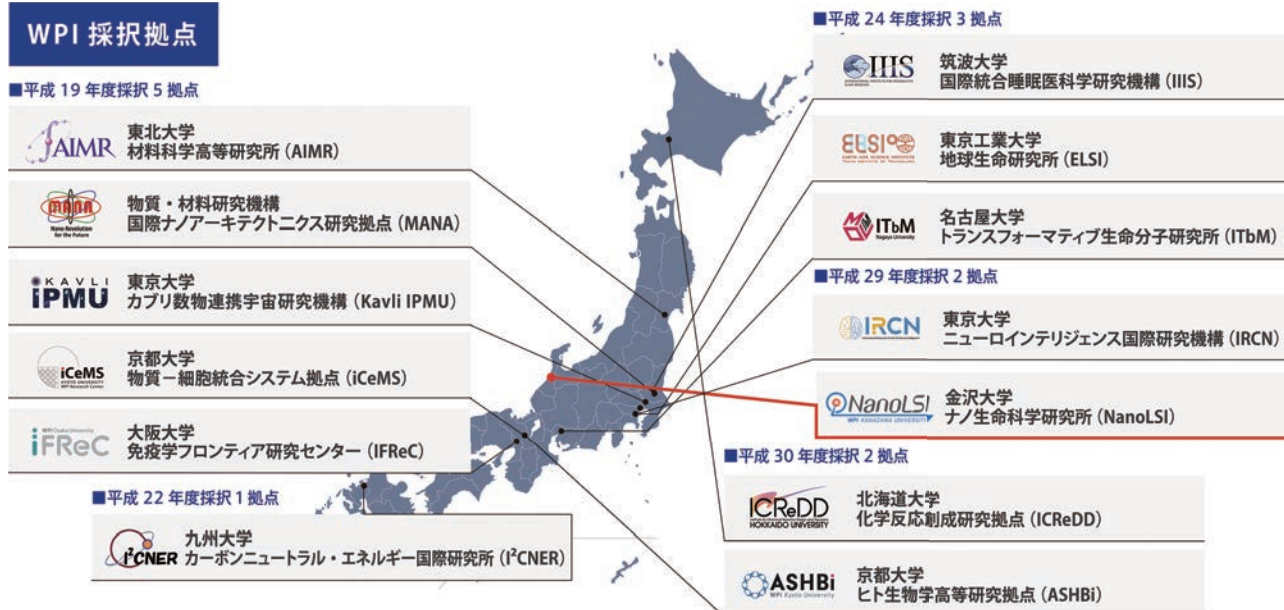
世界トップレベルの研究拠点形成へ

— ナノ生命科学研究所 —



金沢大学は、平成 29 年度に「世界トップレベル研究拠点プログラム」(以下、WPI)に採択され、「ナノ生命科学研究所」(Nano Life Science Institute (WPI-NanoLSI), 以下『NanoLSI』)を設立しました。WPI とは、平成 19 年度から文部科学省が実施している、全世界から第一線の研究者が集まる優れた研究環境と世界最高水準の研究を誇る「世界から目に見える研究拠点」の形成を目指す事業です。

WPI 採択拠点



プログラム詳細はこちら：<https://www.jsps.go.jp/j-toplevel/>

NanoLSI では、1 メートルの 10 億分の 1、ちょうど分子や原子のサイズである「ナノ」の世界を舞台に、ナノスケールのものを観察できる最先端の「走査型プローブ顕微鏡技術」を核として、ナノ計測学、生命科学、超分子化学、数理計算科学間における異分野融合研究を推進します。近い将来、生きた細胞の内部や表層を直接観察、分析、操作することができる世界初の「ナノ内視鏡 (ナノプローブ) 技術」を開発し、この技術によって生命の誕生や老化、「がん」等の疾患など、未だその実態が解明されていない生命現象の仕組みを根本的に理解し、解明することを目指します。

令和 2 年 9 月に、角間キャンパス南地区に研究者が一つの建物に集結するアンダーワンルーフ型の新しい研究棟が完成しました。オープンな環境で分野の枠を超えた研究の更なる加速が期待されます。



ナノ生命科学研究所新棟 (外観)

第 4 回国際シンポジウムを開催

融合研究のさらなる発展のために、研究者と新たな協力関係を構築することを目的とした国際シンポジウムを毎年開催しています。第 4 回は、COVID-19 の影響によりオンラインでの開催となりましたが、ヴァーチャルだからこそ可能な研究交流を目指して、欧州・北米・アジアから著名な研究者を講師に招き、さらに各セッションをスピーカーの所在地域の現地時間に合わせる等、国際的な研究ネットワークの構築に資する有意義な機会となりました。



初の試みであるオンラインによるシンポジウム

研究の特色ある取り組み

世界的研究拠点を目指す

— 超然プロジェクト —



世界的な研究拠点を形成し全学的な研究力強化につなげることで「世界に誇る金沢大学」を実現するため、平成26年度から「超然プロジェクト」を実施しています。平成29年度には、このうち3プロジェクトを基盤とした「ナノ生命科学研究所」構想が、文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム」に採択されました。

令和3年度は、令和元年度からの継続プロジェクト（3件）を支援しています。

<代表者> ○医薬保健研究域医学系 教授 河崎 洋志 ○新学術創成研究機構 教授 河合 望
○環日本海域環境研究センター 教授 長尾 誠也

次世代研究グループ育成

— 先魁プロジェクト —



本学の次世代を担うことが期待される研究グループを育成するため、平成26年度から「先魁プロジェクト」を実施しています。

令和3年度は、「先魁プロジェクト2020」として、令和2年度からの継続プロジェクト（5件）を支援しています。

<代表者> ○理工研究域地球社会基盤学系 助教 佐川 拓也 ○理工研究域生命理工学系 准教授 黒田 浩介
○医薬保健研究域薬学系 教授 大宮 寛久 ○附属病院 特任教授 岩田 恭直
○ナノマテリアル研究所 教授 徳田 規夫

従来概念を超える新たな創造

— 自己超克プロジェクト —



本学の研究者自らの斬新な発想に基づき、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させる志向性がある、多様な研究課題を支援するため、令和2年度に新たに創設しました。

令和3年度は、令和2年度からの継続プロジェクト（6件）を支援しています。

<代表者> ○人間社会研究域経済学経営学系 准教授 佐藤 秀樹 ○理工研究域物質化学系 助教 眞塩 麻彩実
○理工研究域地球社会基盤学系 准教授 ジェンキンス ロバート ○理工研究域生命理工学系 助教 高塚 大知
○医薬保健研究域医学系 講師 木下 雅史 ○ナノマテリアル研究所 准教授 浅川 雅

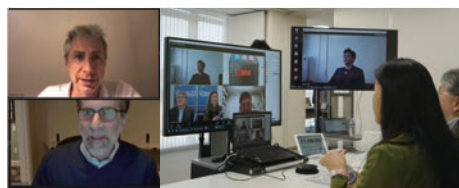
大学の枠を超える

— 共同利用・共同研究拠点 —

文部科学省は、「我が国全体の学術研究の更なる発展のためには、国公私立大学を問わず大学の研究ポテンシャルを活用し、研究者が共同で研究を行う体制を整備することが重要」とし、拠点認定を行っています。令和3年4月現在、国立大学では67拠点、本学は次の2拠点が認定されています。

がん進展制御研究所

全国の国立大学附置研究所の中で唯一の「がん研究」に特化した研究所です。本研究所は、がん研究に関わる中核的研究拠点の一つとして、文部科学省から「がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点」に認定されています。本研究所には、医学・薬学・獣医学及び理工学の幅広い分野の研究者が集結し、がんの悪性化機構の本態解明と先進的がん治療に関わる研究を推進しています。



令和2年11月26-27日 米国、ドイツ、シンガポール、韓国をつないで”金沢国際がん生物学シンポジウム”をオンライン開催

環日本海域環境研究センター

金沢大学の地理的な特色を生かして、環日本海域から東アジアにおける種々の環境問題の科学的研究による解決に積極的に取り組んでいます。平成28年度に文部科学省から「越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点」に認定され、これまでの大気・海洋・陸域ごとの研究を統合して先進的調査研究を推進する「統合環境学」を創成し、研究成果を世界に発信しています。



令和3年3月11-12日 共同利用研究報告会、令和2年11月30日-12月3日 国際ジョイントシンポジウム（共同利用・共同研究拠点シンポジウム、超然シンポジウム）をオンライン開催

次世代モビリティ社会の実現を目指す

令和3年4月、本学は新たに「高度モビリティ研究所」を新設しました。本学は平成27年2月以降、国内の大学では類例のない公道走行実証の実績を重ねてきました。今般、人文・社会科学系や医薬系の研究者も交え、単に自律型自動運転自動車が安全・快適に走行するだけでなく、その技術を活用した次世代モビリティ社会の構築に向けて研究を進めていくこととしています。

— 高度モビリティ研究所 —



令和3年4月、高度モビリティ研究所の新設にあたり行われた実験車両の展示

科研費採択状況

科研費は、人文・社会科学から自然科学まで、基礎から応用に及ぶあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）の発展を目的とする、我が国最大規模の研究助成制度です。

本学では、科研費獲得に向けた支援を全学的に行っており、令和2年度科研費の採択件数は、962件（うち新規採択347件）となりました。

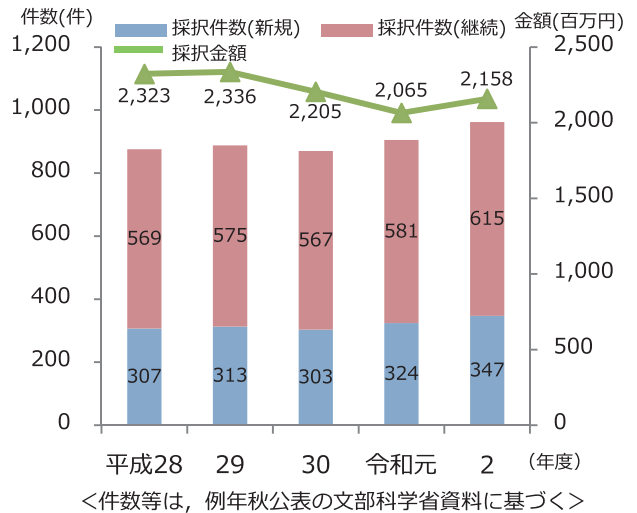
採択件数の順位は、国内研究機関では14位で、いわゆる旧六大学（金沢大、千葉大、新潟大、岡山大、長崎大、熊本大）の中では、岡山大学に続き2位となります。

<令和2年度採択の大型研究種目>

科学研究費助成事業-学術変革領域研究(A)-（文部科学省・令和2年度創設）

中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ（令和2年度～令和6年度）

人間社会研究域歴史言語文化学系・教授 中村 慎一



金沢大学が誇る研究者

— 令和2年度の主な受賞 —

令和2年度文部科学大臣表彰・科学技術賞（研究部門）

炭素同位体比変動を用いた温暖化地球の環境解読に関する研究

理工研究域地球社会基盤学系・教授 長谷川 卓

令和2年度文部科学大臣表彰・科学技術賞（研究部門）

肺がんの分子標的薬耐性を克服する研究

がん進展制御研究所・教授 矢野 聖二

令和2年度文部科学大臣表彰・若手科学者賞

社会基盤整備の長期的な影響評価手法に関する研究

理工研究域地球社会基盤学系・准教授 高山 雄貴

研究の特色ある取り組み

主要公募事業の採択実績

文部科学省事業をはじめとする各種公募事業の採択を受け、先進的な研究活動を行っています。以下は、令和2年度に採択された主な実績です。

創発的研究支援事業（国立研究開発法人科学技術振興機構・令和2年度創設）

文部科学省では、これまでに類をみない最長10年にわたる研究資金と、研究に専念できる環境の整備を一体的に支援する新たな事業を令和2年度に創設しました。本事業は、既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な多様な研究を支援しています。第1期となる令和2年度は応募総数2,537件に対し252件が採択となり、本学からは8件採択されています。

○細胞熱工学の深化と生命システム制御	ナノ生命科学研究所・准教授	新井 敏
○ミトコンドリア動態に着目した初期発生の研究	医薬保健研究域保健学系・助教	荒磯 裕平
○非感染性自然免疫活性化機構の全貌解明	医薬保健研究域薬学系・准教授	倉石 貴透
○エアロゾルと気候変動を繋ぐその場測定法の開発	理工研究域フロンティア工学系・助教	玄 大雄
○化学・ナノ構造カップリングの解明に資する対話型分析技術の創成	ナノ生命科学研究所・教授	高橋 康史
○トポロジーを用いたグラフの変形過程の解析と応用	理工研究域電子情報通信学系・准教授	中村 伊南沙
○ダイヤモンドパワーエレクトロニクスの創成	ナノマテリアル研究所・准教授	松本 翼
○肺胞マクロファージによる肺修復・再生法の開発	医薬保健学総合研究科・特任助教	渡辺 知志

ムーンショット型研究開発事業（内閣府・令和2年度創設）

大気中からの高効率CO₂分離回収・炭素循環技術の開発（令和2年度～令和11年度）

理工研究域機械工学系・教授 児玉 昭雄

本事業は、我が国発の破壊的イノベーションの創出を目指し、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発（ムーンショット）を推進することを目的としています。金沢大学では、ムーンショット目標4「2050年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現」の達成に向けて、研究プロジェクトを実施しています。

先端研究基盤共用促進事業（文部科学省・令和2年度～令和6年度）

コアファシリティ構築支援プログラム

本事業は、大学・研究機関全体として、研究設備・機器群を戦略的に導入・更新・共用する仕組みを強化（コアファシリティ化）することを目的としています。金沢大学では、新たに設置した研究基盤統括本部を中心として、研究設備の全学共用体制への再編、共用を促進するための取組、研究基盤に関わる人材の育成等を行います。

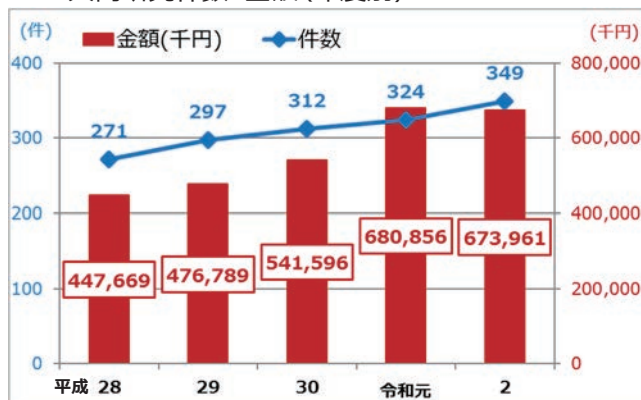
産学連携

共同研究の状況

共同研究とは、企業等から研究費等を受入れ、民間の研究者と本学の研究者が、対等の立場で共通の課題に取り組む制度です。優れた研究成果をいち早く社会に還元することを目指し、本学も積極的に推進しています。

本学の共同研究における実施件数及び実施金額は増加傾向にありますが、令和2年度においては、コロナ禍により企業の研究開発費が減少したことなどの影響を受け、令和元年度と比して、件数は増加したものの、金額としては減少という結果となりました。

■ 共同研究件数・金額（年度別）



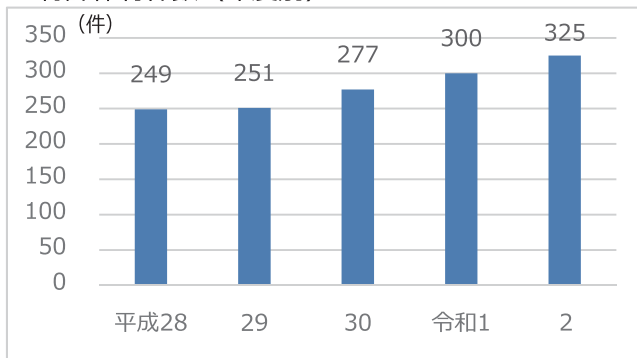
産学連携

特許活用の状況

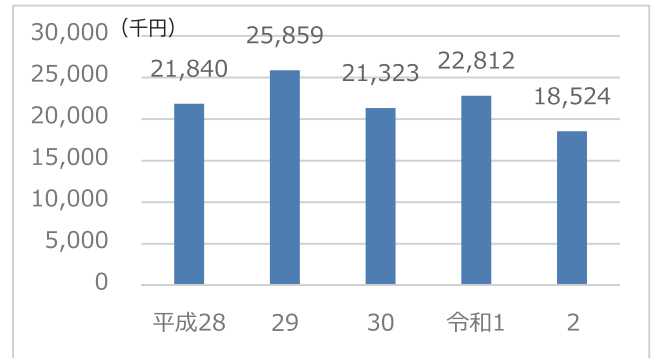
研究の成果によって生み出された大学の特許は、実施料収入等だけを得るのではなく、大学の研究成果が社会で最大限活用されるための手段として利用されています。

特許が社会で有効活用され社会貢献できると判断されるときは、技術移転（企業へ特許の使用許諾をすること＝ライセンス）による活用を図ります。

■特許保有件数（年度別）



■実施料等収入額（年度別）



令和2年度の実施料等収入はコロナ禍のため減少し18,524千円でした。消化器がんの遺伝子診断キットや原子間力顕微鏡、血液診断キット、電波可視化装置などにかかるライセンス技術が主力特許となっています。

「新産学協働研究拠点（仮称）」の整備

令和2年12月、本学は株式会社ダイセルと「新産学協働研究拠点（仮称）」の整備について合意しました。現在、本学と株式会社ダイセルとは包括連携協定の下、共同研究講座を設置し、セルロース系の脱ヒ素浄化材の開発や、バイオマス由来の脱石油系合成プラスチックの製造を目指した共同研究を進めています。

また、令和3年4月には、両者の幹部が一同に介したステアリング会議も開催され、新研究拠点の運営体制や整備計画について議論を深めました。

この新研究拠点は、“Speed & Flexibility”のキーワードの下、株式会社ダイセルのみならず、他の企業や大学、研究機関との連携も視野に、バイオマス研究の世界的な拠点形成を目指して、令和4年秋の竣工を予定しています。



令和2年12月8日、東京都内で「新産学協働研究拠点（仮称）」の整備等に関する覚書の締結式を実施

中小企業基盤整備機構との連携と「J-GoodTech」の活用

令和3年3月、本学は中小企業基盤整備機構北陸本部と産学連携の促進のための連携協定を締結しました。

この協定により、同機構のマッチングサイト「J-GoodTech（ジェグテック）」を活用して、本学の技術開発シーズを多くの企業に紹介し、新たなマッチングを進めていくこととしています。

この取り組みは、コロナ禍の中、オンラインツールを用いつつ、新たな産学連携の形を模索するものです。

今後は、両者連携して、産学連携を通じて地域企業・産業の支援を推進していくこととしています。

マッチングサイト「J-GoodTech」をチェック→



令和3年3月16日 包括的連携協定締結式を実施

附属病院の特色ある取り組み

北陸全域の医療拠点 金沢大学附属病院



新型コロナウイルス感染症への対応

コロナ
対応

令和2年4月より、石川県からの要請に応じて重症患者さんの受け入れを行っています。受け入れにあたり、病棟の整備や人工呼吸器等の高額な医療機器の整備、多数の医療スタッフの配置を行いました。また、5月に設置した新型コロナウイルス感染症対策基金には、多くの法人個人から多大なご支援をいただき、寄せられた多くの心温まるメッセージは、コロナ治療チーム（コブサット※COVSAT：Covid Special Assistant Team）のみならず、病院スタッフ全員の励みとなっています。

重症で高度医療を必要とする患者さんへの診療を使命とし、引き続き最善を尽くしてまいります。

患者さんの利便性向上

スマートフォン向け待合番号表示アプリ（Sma-pa）の導入により、各診察室の待合状況やお支払い時の待ち状況が、いつでもどこでも確認でき、混雑している待合周辺を避けて、院内売店やカフェ、駐車場等でお待ちいただくことが可能となりました。

また、令和2年6月に外来診療棟1階ホスピタルプロムナード（正面入口付近）に、デジタルサイネージ「メディカルナビタ」を設置しました。タッチパネルで石川県内の最寄りの医療機関の検索が可能のほか、病院からのお知らせ動画も見ることができ、来院者の待ち時間のストレス軽減の一助となっています。今後も患者さんにやさしい病院を目指して、患者サービスの向上に努めていきます。



第2立体駐車場の供用

第2立体駐車場の建設工事を進め、令和3年4月から供用を開始しました。新たな第2立体駐車場の整備により、患者用駐車スペースが約100台分増加しました。



新中央診療棟（仮称）の整備

令和2年度に、新たな診療棟を整備する計画を決定しました。この計画は手術室を増設するなど診療機能を強化することを目的としており、令和3年度中に着工、令和5年度中の供用開始を予定しています。



新中央診療棟（仮称）完成予想図

社会貢献の特色ある取り組み

社会との共創による学習・人材育成プログラムの提供

地域社会との共創による学習・人材育成プログラムの開発・提供をとおして、個人の要望や社会の要請に応じた多様な学びの機会を提供し、生涯学習の振興や学びの「輪」の創出と循環に寄与します。

能登里山里海 SDGs マイスタープログラム

世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」を起点に、志を持って集まった様々な背景をもつ人たちが相互に学びあうことを通じて、地域の課題解決に貢献できる人材を養成しています。本プログラムは、能登地域と大学との密接なネットワークを基盤として、珠洲市と金沢大学が共同で出資して運営しています。

これらの人材育成や移住者の定着促進に向けた取り組みが、過疎高齢化の地域課題の解決を図るとともに、地方創生に寄与していると評価され、全国イノベーション推進機関ネットワークが実施するイノベーションネットアワード 2018 において、**文部科学大臣賞を受賞**しました。

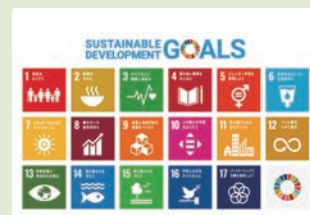
また本プログラムは、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学大臣から「職業実践力育成プログラム」の認定も受けています。



金沢大学と持続可能な開発目標（SDGs）

金沢大学では、国際的な活動、地域志向の活動、SDGs 人材の育成の 3 つを密接に連携させながら、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みを積極的に進めています。

「能登里山里海 SDGs マイスタープログラム」をはじめ、珠洲市、金沢市、小松市など、内閣府の SDGs 未来都市として認定されている自治体や、国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットと連携した活動、「国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム」への参画、「SDGs ジオ・エコパーク研究センター」を起点とした SDGs・ジオパーク・ユネスコエコパークに関する教育研究活動など、金沢大学では今後もこうした活動をさらに発展させ、持続可能社会の実現に向けた貢献をより一層進めていきます。



ビジネス・クリエイティブ・コーディネーター養成プログラム

Society5.0 の到来に向けて様々な社会変革がおきている中、企業・業界の枠を超えた「共創」により新しいビジネスの創造を目指す「コーディネーター」を養成するための新たなプログラムを立ち上げました。

金沢大学公開講座

価値観の多様化や高度化する学習ニーズへの対応や、自発的な学習活動の支援のため、幅広い分野の講座を企画・実施しています。金沢市西町教育研修館内の金沢大学サテライト・プラザでの講座のほか、遠隔地教育システムによる珠洲市内、小松市内のサテライト施設への映像配信（LIVE 配信）も行い、県内広域に幅広い学びを提供しています。

令和 2 年度 10 講座開設 受講者 249 名（うち遠隔地配信受講 35 名）



多様な学びのプログラムメニューを再構築！

社会人向けのリカレント教育事業を「金沢大学オープンアカデミー（KOA）」に、学生向けの地域共創型イベント・教育事業を「Project: AERU（アエル）」にそれぞれ集約してプログラムを整理・再構築しました。

より分かりやすく、開かれた学びに向けて、これからも様々なプログラムを開発・提供します。



社会貢献の特色ある取り組み

アントレプレナーシップの醸成と地域産業の発展に向けた取り組み

地域にある団体・企業との共創によって、学生のアントレプレナーシップを育むとともに、社会変革を先導し、地域社会の発展のためのモデルとなるような取り組みを展開していきます。

北陸農政局との共創によるアイデアソン「アグリソン」

自治体や企業と連携してビジネスアイデアを創造するアイデアソンの枠組みを用いて、農業にフォーカスしたアイデアソンである「アグリソン」を北陸農政局との共創で実施しています。学生・農業者・プランナー・企業人で構成されるグループごとに、学生らは農業現場での経験や大学での学びなどを踏まえて事前に検討した課題の解決策を発表し、それを基にビジネスプランを練り上げるプログラムを展開しました。



「アグリソン」から生まれた新たな動き！ - 「まんで！ marché（マルシェ）」参画

金沢大学と mandelene（マンディーネ）は、県内農業者の6次産業化を支援する『「まんで！サポート」プロジェクト』の一環として、本学学生が農業者と共に農作物や加工品を直販する「まんで！ marché（マルシェ）」を実施しました。参加学生は、農業者へのヒアリングやマルシェでの販売活動を通して、各農業者の実情や仕事へのこだわり、消費者のニーズなどを理解するとともに、地域の人々との交流を深めました。



オンラインによる学生向けキャリア教育「TO THE FUTURE」

北陸が誇る企業を徹底的に知る特別プログラムとして、起業家教育支援基金に賛同いただいたこれからの未来を担う北陸地域の企業による講演をとおして、業界や企業が目指す未来を想像しながら、未来を創造する人材となることを目指すオンラインセミナーを開催しています。

起業家教育支援基金の創設

起業家を目指す学生や、起業家精神（アントレプレナーシップ）をもって会社組織で活躍を目指す学生を養成するための活動資金とするため、「起業家教育支援基金」を新たに創設しました。ご寄附いただいた企業を「金沢大学起業家教育メンター企業」として認定しオンラインセミナーを実施いただくなど、地域企業との共創によるアントレプレナーシップ教育を進めていきます。

「共創型企業・人材展開プログラム」の実施

金沢大学と協同組合全国企業振興センター（アイコック）および株式会社北國銀行が共同で、都市部で活躍する人材に実践型リカレント教育の場と客員研究員としての立場を提供し、その人材が石川県内企業の発展をサポートする「共創型企業・人材展開プログラム」を実施しています。このプログラムでは、都市部の人材が地域企業支援に必要な知見を学ぶ場を提供することで、県内企業が都市部の人材を活用できるネットワークづくりに取り組むとともに、都市部の人材が地域企業へと流動するエコシステムの形成を目指します。



成果発表会におけるグループ研究発表

留学・国際交流の状況

日本人学生と外国人留学生がともに学ぶ環境の醸成

国際交流協定を締結している海外の大学（以下「協定校」）と相互に学生派遣と受入を行うとともに、様々な受入プログラムを通じて外国人留学生を受け入れ、日本人学生と外国人留学生が切磋琢磨し、学び合える環境作りを行っています。

令和2年度は海外研修プログラムのオンライン開催や、協定校とのオンライン交流等、コロナ禍においても学生交流及び学修の機会を広く提供し、国際学生交流の取組を推進しています。

オンラインでも！海外研修プログラムの実施

本学では、協定校への長期の派遣留学制度、語学研修や特定のプログラム等による短期留学制度があり、学生の積極的な参加を呼びかけています。

新しい国際交流のあり方として、大学公式の海外研修オンラインプログラムも開催しています。
（令和2年度：19件に159名の学生が参加）



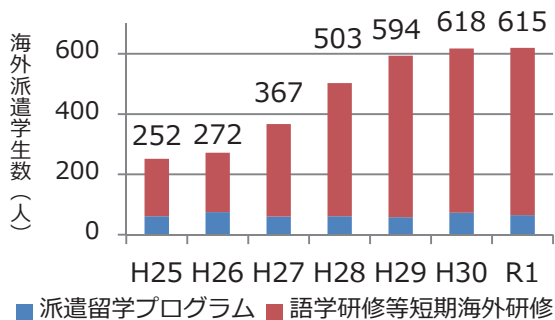
派遣留学（3か月～1年）

アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、フィンランド、ロシア、中国、台湾、マレーシア、タイ等の本学協定校

語学研修等短期海外研修（1～6週間）

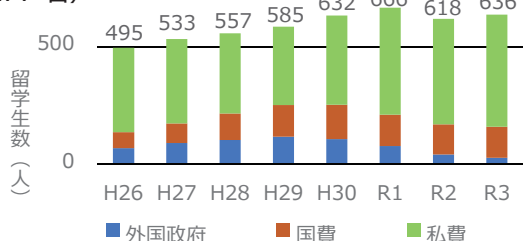
ファーストステップ（タイ、ロシア、中国、台湾）、インターンシップ（世界遺産、YKK、HISなど）、英語研修（エジンバラ大学、ワイカト大学）ほか
官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～による派遣

（平成26年度からの派遣数累計：91名）



優秀な外国人留学生受入の促進

協定校からの交換留学生の受入に加え、特別な協定に基づいた政府派遣留学生の受入や国費外国人留学生の優先配置プログラム等により、外国人留学生の受入に取り組んでいます。さらに、渡日が困難な状況においても工夫して協定校の留学生とオンラインでの交流を行っています。（令和2年度：34件、本学からの参加延べ326名、受入れ延べ277名）



国際交流協定の拡充

本学は、世界47カ国1地域の機関と協定を締結し、なかでも重点的に学生交流・研究交流を行う重点交流校を定め、海外の卓越した大学との戦略的な教育研究連携を推進しています。

令和3年5月1日現在

総数 292 機関（47カ国 1地域）

国際交流協定地域別内訳	大学間	部局間	計
アジア	124	55	179
ヨーロッパ	31	19	50
北米	12	4	16
中南米	9	-	9
ロシア及びNIS	11	2	13
オセアニア	6	4	10
中東	7	1	8
アフリカ	3	2	5
国際機関	1	1	2
計	204	88	292

国際感覚を育むキャンパス環境

学生・留学生宿舎【先魁】^{さきかけ}、【北溟】^{ほくめい}

国際交流を推進しグローバル人材を育成することを目的に、角間キャンパス内に外国人留学生と日本人学生が1つのユニット（男女別）で生活するシェアハウス型の宿舎を設置しています。



国際交流ルーム

外国人留学生と日本人学生の「学び」を通じた交流の促進を目的として、「国際交流ルーム」をキャンパス内に設置しています。



教職員・学生の英語力向上をサポート！

金沢大学スーパーグローバル ELP センター※

全学的な英語運用能力向上のため、教職員・学生を対象とした英語研修プログラムを開講しています。

※ELP: English Language Programs



留学・国際交流の状況

留学・国際交流の拡大を多面的に支えるネットワークとサポーター

海外リエゾンオフィス

本学では、現地学生のリクルートや現地入試、留学のためのサポート、現地との共同研究や海外インターンシップ等の拠点として、13カ国に27カ所の海外リエゾンオフィスを設置しネットワークの拡充を進めています。

コラボラティブ・プロフェッサー制度

本学の卒業生・修了生等で、海外の高等教育機関に所属し、本学の国際化推進を支援する教員等を委嘱し、海外現地での学生募集、派遣学生のフォローアップや国際共同研究の推進等の支援を得ています。
令和3年4月1日現在：179名



海外同窓会

アメリカ支部、ベトナム、ミャンマー、タイ、中国、インドネシア、ロシア（令和3年5月1日現在6カ国、1支部）



帰国留学生の交流ネットワーク構築の支援をしています。また、各同窓会の代表者が一堂に会する同窓会総会を隔年で実施しています。



国際交流アドバイザー制度

主として本学の海外留学を行う学生や外国人留学生に社会生活、就学、海外インターンシップ等に関する助言や支援を行ってくださる学外の方を「国際交流アドバイザー」に任命しています。

国際連携強化教員

海外に強いネットワークを持つ学内者を任命し、国際化推進を強化しています。

国立六大学国際連携機構（SUN/SixERS）

千葉大、新潟大、岡山大、長崎大、熊本大と連携し、各大学の強みを生かして、国際的プレゼンスの向上を図っています。



1. 共同学生交流プログラムの実施
2. 海外の有力大学連合（AUN等）との交流推進
3. 国際化に資するための共同事業

ASEAN University Network

ASEAN University Network(AUN)は、ASEAN10カ国の大学が加盟する国際大学連合です。本学は、AUN加盟大学に、日本、中国、韓国の3カ国の大学を加えたASEAN+3 UNetに加盟し、世界各地と学生交流、研究者交流や共同研究を積極的に実施しています。**令和3年度に本学が幹事を務めるASEAN+3 Rectors' Conferenceを開催する予定です。**

海外拠点を活用した世界トップレベル大学等との研究交流

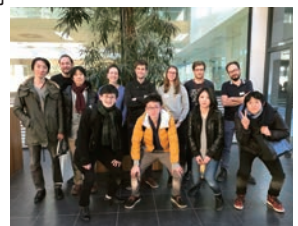
国際共同シンポジウム

若手研究者を中心とした研究交流を促進しています。
実績例：中国・清華大学、台湾・国立成功大学、ロシア・カザン連邦大学等、タイ・モンクット王工科大学トンブリ校、ドイツ・デュッセルドルフ大学



大学院生研究交流会

大学院生同士の研究交流会の開催を促進しています。
実績例：中国・清華大学（令和元年5月）、台湾・台南（同7月）、タイ・バンコク（同8月）



国際化を加速する事業

・大学の世界展開力強化事業（ロシア） （平成29～令和3年度）

ロシアの連携機関と学生交流プログラム（文化、理工系分野、医学系分野）を実施し、日露をつなぐリーダー人材を育成します。将来的には、大学間交流を地域間交流に展開します。

・留学生就職促進プログラム （平成29～令和3年度）

・日本海外留学拠点連携推進事業 （令和元年度～）

※採択機関：岡山大学



ロシア文化交流プログラムで神輿を担ぐロシアからの留学生

学習支援

入学から卒業・修了までの手厚い支援

ラーニングサポートデスク

授業外における教育・学修支援を担うクラス・ラーニング・アドバイザー (CLA)、授業とは紐づかない一般的な「学習」支援を行う附属図書館のライブラリー・ラーニング・アドバイザー (LiLA) が多様な学びに対応します。個人相談やセミナーを通し、入学直後から大学での学びを支援する体制を整備しています。

LiLA の活動

時 間：月～金 (13:15～16:30) ※休業期間中を除く

場 所：中央図書館・自然科学系図書館 ※オンライン相談も受け付けます。

対応内容：日常の勉強法，レポート・論文の書き方，プレゼンテーションの方法，資料文献の探し方，外国語学習，理系基礎科目についての相談など



時間割やオンライン相談の
接続先が確認できます

なんでも相談室「～よるまっし～」

「よるまっし」は、金沢の方言で「寄っていきなさい」、「寄ってみませんか」という意味です。気軽に寄ってもらえるよう、名称に取り入れました。

時間・場所：授業期間中の平日，総合教育講義棟 2 階

予 約 受 付：電話，メールで予約受付が可能

相 談 体 制：教員及び学生相談員による相談

必要に応じ専門分野の教員や保健管理センターなどを紹介

対 応 内 容：悩みや相談に応じてアドバイスやサポートを実施 相談内容は秘匿



障がい学生支援室

全学的な障がい学生支援体制の整備のため、平成 27 年度に設置しました。障がいのある学生個々のニーズに応じ、様々な支援の提案を行っています。例えば、聴覚障がいのある学生への補聴援助機器（マイク）の貸与やノートテイクの配置等の支援を行っています。また、発達障がいのある学生の学修に関わる個々の相談にも応じています。



経済支援

修学支援新制度（学士課程）

経済的な理由で学び続けることをあきらめないよう、令和 2 年 4 月から大学等における修学の支援に関する法律による授業料等減免制度の創設と併せて日本学生支援機構の給付奨学金の対象が拡大されました。対象は住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生（日本国籍，法定特別永住者，永住者又は永住の意思が認められる定住者）です。修学支援新制度に申込み，支援対象となった場合は，世帯の所得金額に基づく支援区分【第Ⅰ区分（全額），第Ⅱ区分（2/3 免除），第Ⅲ区分（1/3 免除）】に応じて入学料及び授業料を減免します。さらに支援区分に応じた給付奨学金が支給されます。

修学支援新制度における授業料及び入学料の減免額（R3 年度）

支援区分	減免額	納付必要額	
		授業料（半期）	入学料(1回限り)
第Ⅰ区分	全額	0 円	0 円
第Ⅱ区分	第Ⅰ区分の減免額の 2/3	89,300 円	94,000 円
第Ⅲ区分	第Ⅰ区分の減免額の 1/3	178,600 円	188,000 円
それ以外	なし	267,900 円	282,000 円

入学料免除・入学料徴収猶予

学域学生には学資負担者の死亡・災害により，大学院学生には経済的な理由及び優秀な学業成績により，選考のうえ，入学料の全額又は半額を免除する制度や，入学料の納入を猶予する制度があります。

経済支援

授業料免除（修学支援新制度対象者以外）

学域学生のうち修学支援新制度対象外となる者及び大学院・別科学生で、経済的な理由によって授業料の納付が困難な学生で、かつ学業成績優秀と認められる学生には、選考のうえ、授業料の全額、半額又は一部を免除する制度があります。

学外奨学金

本学が取り扱う奨学金は、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体及び民間育英団体の奨学金です。奨学生の条件は、主に学業成績が優秀で学資支弁が困難である者です。

募集中の奨学金は、金沢大学 Web サイト> 在学生> 経済支援にて公開しています。

奨励金〔令和2年度の実績〕

- 法学研究科法務専攻奨学金 月額5万円 : 5名
- 異分野融合型人材育成「大学院 GS プログラム」奨学金 月額5万円 : 17名
- スタディーアブロード奨学金 ★はコロナ禍により令和2年度の派遣を実施していません。
 - ・大学院研究交流枠（派遣）（学会、研修、研究及びラボローテーション等）★（令和元年度は54名）
留学期間7日以内5万円、8日以上1年以内 JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）（以下、JASSO）と同額・同じ給付期間
 - ・学域・大学院派遣枠 a（派遣留学）★（令和元年度は12名）
 - ① JASSO の成績基準を満たす者：JASSO と同額・同じ給付期間
 - ② 同上を満たさない者：JASSO と同額を1ヶ月分のみ支給
 - ・学域・大学院派遣枠 b・c ★：1名（令和元年度は177名）
 - (b. JASSO に採択された本学の公式海外派遣プログラム) JASSO と同額・同じ給付期間
 - (c. 本学の公式海外派遣プログラム, 個人留学, その他の海外研修)
JASSO の月額1万円減を留学期間に関わらず1ヶ月分のみ支給
 - ・外部奨学金獲得支援枠（トビタテ！留学 JAPAN 等の面接旅費支援）★（令和元年度は31名）
東京：25,000円、その他の地域：国内交通費相当分
 - ・在籍延長支援枠 : 前期（第1・2Q）48名、後期（第3・4Q）48名
（海外留学により、修業年限（標準修業年限）を超えて在籍する学生）クォーターごとに12万5千円）
 - ・派遣留学報告会アワード : 3グループ（3名）
（派遣留学報告会で優秀な発表を行った者） 1位：5万円、2位：3万円、3位：2万円
- 官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～
令和2年度実績： 第12期 全国枠14名、 地域枠2名 計16名

本学独自の奨学制度

大学院学生を中心に、各種の手厚い給付型奨学金を制度化しています。

就職支援室では

就職活動をサポート

- ・就職ガイダンスの開催
- ・就職個別相談の実施
- ・インターンシップ受入先の紹介
- ・インターンシップ参加手続き
- ・企業研究会等就職支援プログラムの実施
- ・求人情報の提供
- ・就職活動関連書籍の貸出し
- ・就職ハンドブックの発行
- ・企業対象刊行物の発行（ほか）



主な行事

区分	日程	対象学年	行事
共通プログラム	10月	2年	進路ガイダンス
	4月	3年, 修士1年	
	5月, 6月	全学年	インターンシップガイダンス
	12月		OB・OG懇談会
4月～2月		キャリア支援イベント	
産業界志望者 対象プログラム	10月～1月	3年, 修士1年	就職ガイダンス
	7月, 10月～12月	全学年	業界・職種ガイダンス
	2月中旬, 3月上旬	3・4年,	企業研究会
	3月～7月	修士1・2年	面接練習会
公務員志望者 対象プログラム	9月	4年, 修士2年	合同企業説明会
	4月～2月	3・4年,	公務員ガイダンス
教員志望者 対象プログラム	3月～7月	修士1・2年	面接練習会
	10月～11月	3年, 修士1年	教員就職ガイダンス
	4月～12月	3・4年,	教員採用試験説明会
	6月	修士1・2年	面接・模擬授業練習会

進学・就職状況

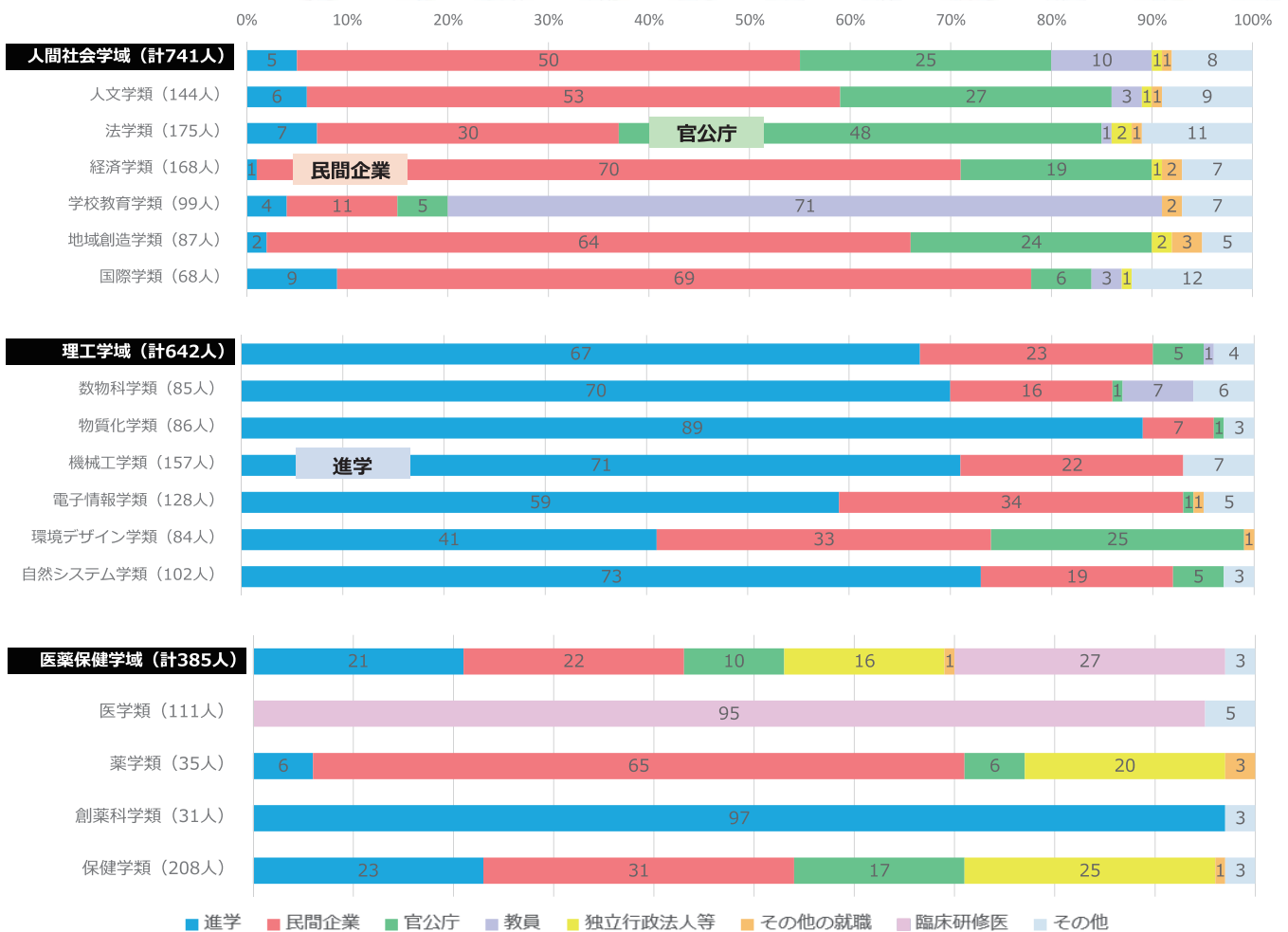
本学の令和2年度卒業生（学士課程）の就職率（就職決定者÷就職希望者×100）は98.5%と、前年に続き高い水準で推移しています。また、「大学で学んだ専門分野をもっと深めたい」という学問探究への意欲あふれる学生や「法曹を目指したい」という学生には、大学院進学を強く推奨しています。

進路の特徴は、人間社会学域は官公庁への就職者が多く、理工学域は67%が大学院に進学しており、医薬保健学域は医療機関への就職者が多いことが挙げられます。

令和2年度 国家試験合格実績及び公務員・教員就職者〔大学院進学者は30%・538名〕

国家試験合格実績		公務員就職者		教員就職者	
試験	合格者	試験	就職者	採用	就職者
司法	2名	総合職〔旧Ⅰ種〕	2名	正規〔新卒〕	145名
医師〔新卒〕	106名（合格率95%）	一般職〔旧Ⅱ種〕	26名	非正規〔新卒〕	35名
薬剤師〔新卒〕	35名（合格率100%）	専門職ほか	40名		
看護師〔新卒〕	80名（合格率100%）	地方公務員			
		石川県内	84名		
		石川県外	148名		

卒業生進路状況



入試情報

新学域始動！学びの可能性を広げる4学域・19学類

募集人員（令和4年度入試）

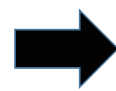
令和3年4月現在

学域・学類等	入学定員	募集人員												
		前期日程	一括入試	KUGS特別入試				特別選抜						
				総合型選抜	学校推薦型選抜	英語総合選抜	A-lympiad選抜	超然文学選抜	薬学類・高大院接続入試	在外留学生推薦入試	社会人入試	帰国子女入試	国際ハカルレ入試	私費外国人留学生入試
融合学域	先導学類	55	40	II 6	—	II 若干名	I 若干名	若干名	—	3	若干名	若干名	若干名	若干名
	観光デザイン学類(仮称)☆1	未定	未定	II 未定	—	II 未定	I 未定	未定	—	未定	未定	未定	未定	未定
	計	55	40	6	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—
人間社会学域	人文学類	141	123	II 5	—	—	I 若干名	若干名	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	法学類	160	135	II 10	—	—	I 若干名	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	経済学類	131	106	—	I 10	—	I 若干名	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	学校教育学類☆2	85	58	II 18 Ⅱ 3 Ⅲ 3 Ⅳ 5 Ⅴ 3 Ⅵ 4	II 7 Ⅱ 2 Ⅲ 1 Ⅳ 4	—	I 若干名	若干名	—	—	—	—	若干名	若干名
	地域創造学類	88	63	II 15	—	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	国際学類	83	53	I 20	—	—	I 若干名	若干名	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	計	688	538	68	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—
理工学域	数物科学類	82	71	II 3	—	—	I 若干名	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	物質化学類	79	69	II 3	—	—	I 若干名	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	機械工学類	97	239	II 3	—	—	I 若干名	—	—	—	—	—	—	—
	フロンティア工学類	107	84	—	—	—	I 若干名	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	電子情報通信学類	78	87	II 3	—	—	I 若干名	—	—	—	—	—	—	—
	地球社会基盤学類	98	80	II 3	II 5	—	I 若干名	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	生命理工学類	58	49	II 3	—	—	I 若干名	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	計	599	508	18	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
医薬保健学域	医学類(6年制)	112	84	—	II 27	—	II 若干名	—	—	—	—	若干名	—	若干名
	薬学類(6年制)	65	53	—	—	—	—	—	10	—	—	若干名	若干名	若干名
	医薬科学類	18	18	—	—	—	I 若干名	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	看護学専攻	79	64	—	—	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	診療放射線技術学専攻☆3	40	36	—	II 14	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	検査技術科学専攻	40	32	—	II 3	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	保健学類	—	—	—	II 6	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	理学療法学専攻	15	20	—	II 5	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	作業療法学専攻	15	10	—	II 5	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	小計	189	152	—	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	384	307	—	60	—	—	—	—	10	—	—	—	—
合計	1,726	1,393	146	92	82	—	—	—	10	3	—	—	—	

【注意】 1. 記載事項は全て「予定(案)」であり、今後「変更もあり得る」ことを特に記します。
 2. 出願前には、必ず最新の情報を本学Webサイト及び学生募集要項で確認してください。
 3. 特別選抜において、Iは大学入学共通テストを課さない入試、IIは大学入学共通テストを課す入試を指します。
 4. 入試実施方法の補足は次のとおりです。
 *1 理工学域機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類の一般選抜(前期日程)は、3学類一括で実施します。
 *2 保健学類の理学療法学専攻、作業療法学専攻の一般選抜(前期日程)は、2専攻併願で実施します。
 出願時に第1志望及び第2志望の専攻の選択が必要です。また専攻別に合格者を発表します。
 5. 令和4年度の改組計画は次のとおりです。
 ☆1 融合学域観光デザイン学類(仮称)を構想中です。なお、募集人員は未定です。
 ☆2 学校教育学類を富山大学との「共同教育課程」に変更し、学校教育学類共同教員養成課程(仮称)を申請中です。
 ☆3 保健学類「放射線技術科学専攻」の名称を「診療放射線技術学専攻」に変更する予定です。

志願倍率（令和3年度入試）

学域・学类等			前期日程			
			募集人員	志願者数	志願倍率	
学域 融合	先導学類	文系傾斜	20	73	3.7	
		理系傾斜	20	68	3.4	
人間 社会 学域	人文学類		123	234	1.9	
	法学類		135	215	1.6	
	経済学類		106	286	2.7	
	学校教育学類		58	96	1.7	
	地域創造学類		63	171	2.7	
	国際学類		53	68	1.3	
理工 学域	数物科学類		71	144	2.0	
	物質化学類		69	143	2.1	
	理工3学類前期一括入試 （機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類）		239	496	2.1	
	地球社会基盤学類		80	128	1.6	
	生命理工学類		49	77	1.6	
医薬 保健 学域	医学類		84	320	3.8	
	薬学類		53	182	3.4	
	医薬科学類		18	20	1.1	
	保健 学類	看護学専攻		64	96	1.5
		放射線技術科学専攻		36	79	2.2
		検査技術科学専攻		32	88	2.8
		理学療法学専攻		10	53	2.7
		作業療法学専攻		10		
一括	文系一括		68	371	5.5	
	理系一括		78	321	4.1	
合計			1,539	3,729	2.4	



入学者数
55
131
145
119
86
81
75
74
75
250
89
52
111
66
19
78
39
39
18
16
146
1,764

※ 令和3年度入試から後期日程を廃止した。
 ※ 医薬科学類の志願者数には欠員補充第2次募集は含まない。
 ※ 入学者数は特別選抜及び政府派遣留學生を含む。

入学者都道府県別内訳
（令和3年度入試）

入学者の地域別内訳の順は、以下のとおりです。

- 北陸3県 43.7% (47.2%)
- 関東・甲信越地域 21.9% (20.4%)
- 東海地域 17.7% (15.8%)
- 近畿地域 7.9% (8.1%)

※ () 内数字は令和2年度内訳

高等学校卒業程度認定試験等合格	$\frac{2}{11}$
外国の学校等	$\frac{11}{66}$
その他	$\frac{1}{1}$

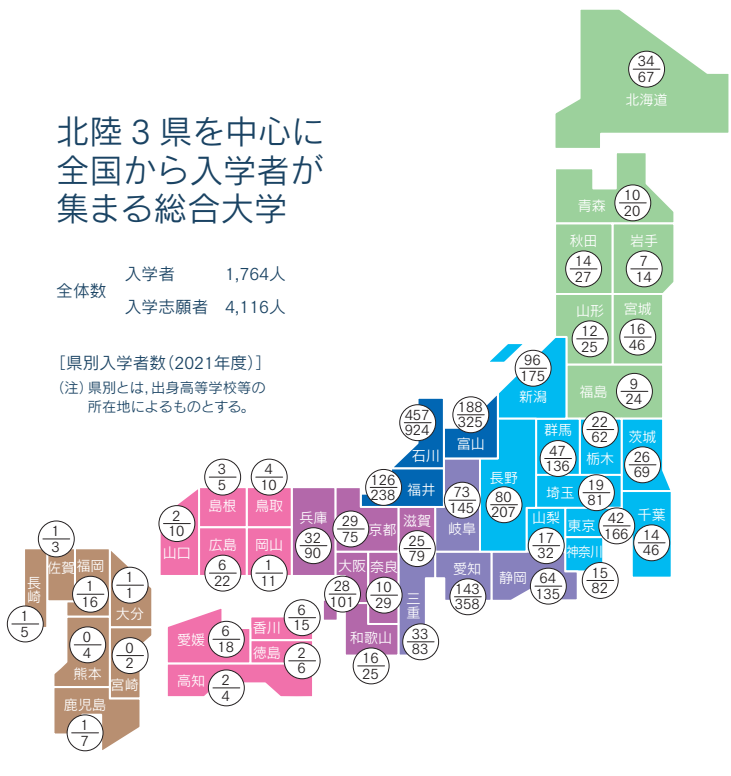
B B=上段は入学者数
A A=下段は入学志願者数

2021年度

北陸3県を中心に
全国から入学者が
集まる総合大学

全体数 入学者 1,764人
 入学志願者 4,116人

【県別入学者数(2021年度)】
 (注) 県別とは、出身高等学校等の所在地によるものとする。



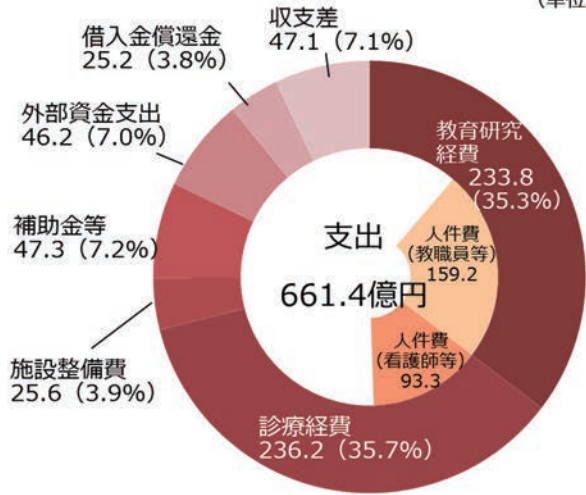
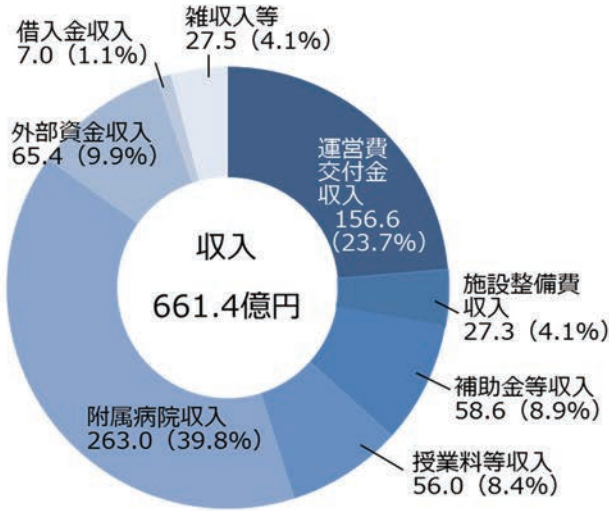
財務状況

～ 困難な財政状況に立ち向かう金沢大学の今 ～

金沢大学の財務状況

令和2事業年度：収支決算ベース

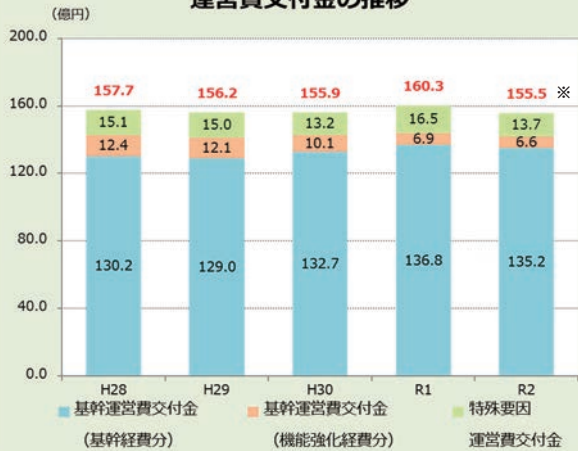
(単位：億円)



収支差 47.1 億円は、次年度繰越等となります。

運営費交付金について

運営費交付金の推移



※上記財務状況の運営費交付金収入との差額は前年度からの繰越分です。

運営費交付金は大学の業務運営の基盤となる財源として、国から毎事業年度交付されます。

令和2年度は約 156 億円が交付され、これは**本学収入合計額の約 24%**に相当します。

令和2年度の本学への運営費交付金は、主として、基幹運営費交付金（基幹経費分）及び特殊要因運営費交付金の減額により、**令和元年度に比べて約 5 億円減少**しています。国の厳しい財政状況により、本学の大学運営の基盤となる基幹運営費交付金は減少傾向にあり、この減少分を補うべく、引き続き安定した自己収入の確保、外部資金の更なる獲得及び業務コストの削減に努め、財政基盤の強化を図っていきます。

運営費交付金には、①大学運営の基盤となる「基幹運営費交付金（基幹経費分）」、②大学独自のプロジェクトや大学改革などに充てる「基幹運営費交付金（機能強化経費分）」、③退職手当や特殊要因等の変動的な経費として「特殊要因運営費交付金」があります。

自治体との比較

本学の令和3年度予算額は約 606 億円です。本学の予算額を地方自治体の令和3年度一般会計予算額と比較すると、石川県の約 1/10、金沢市の約 1/3 となっています。

【令和3年度 一般会計当初予算額】

石川県

約 6,491 億円

金沢市

約 1,782 億円

【石川県に及ぼす経済波及効果】

金沢大学

約 870 億円

北陸新幹線

約 1,680 億円

本学の石川県への経済波及効果については、北陸新幹線の開通による波及効果の約 1/2 という推計もあることから、地域経済の活性化に大きく貢献しているといえます。

(平成30年 本学教員の研究データによる)

教育関係経費について

令和2年度の学生の教育に要した経費は約141億円となり、令和元年度に比べて、約8.0億円減少しました。これは、教員人件費（主に退職手当）が減少したことが主な要因です。

この教育関係経費を学生一人当たり換算すると、年間約139万円が学生の教育目的に使用した金額となります。これらは、本学が掲げる「専門知識と課題探求能力、そして国際感覚と倫理感を有する人間性豊かな人材の育成」という教育目標の達成のために活用しています。

教育関係経費の内訳

(単位：百万円)

区分	R1年度	R2年度	増減
教育経費	2,643	2,596	△47
教育研究支援経費	665	441	△224
教員人件費*1	10,814	10,227	△587
職員人件費*2	761	821	+60
合計	14,883	14,085	△798
学生数	10,139人	10,146人	+7人
学生一人当たりの教育関係経費	約147万円	約139万円	△約8万円

*1 教員人件費については、教育を目的とした部署に所属する教員の人件費です。

*2 職員人件費については、学務部及び3学域における学生課職員の人件費です。

研究関係経費について

研究関係経費の内訳

(単位：百万円)

区分	R1年度	R2年度	増減
研究経費	4,789	4,680	△109
外部資金	4,917	4,460	△457
合計	9,706	9,140	△566
常勤教員数	1,202人	1,215人	+13人
常勤教員一人当たりの研究関係経費	約807万円	約752万円	△約55万円

令和2年度の研究に要した経費は約91億円となり、令和元年度に比べ、約5.7億円減少しました。

これは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う旅費交通費等の減少が主な要因です。

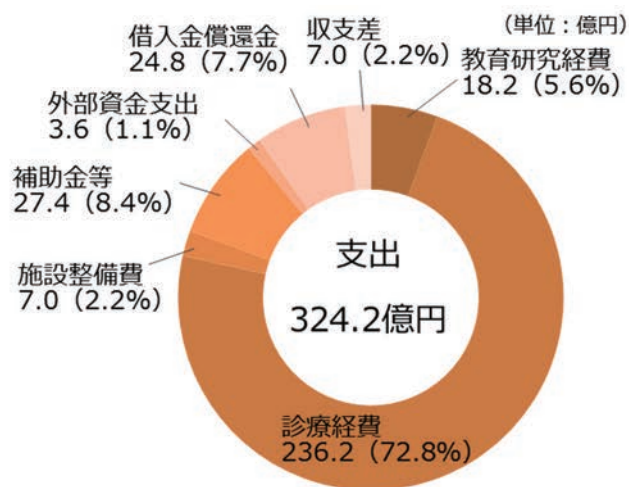
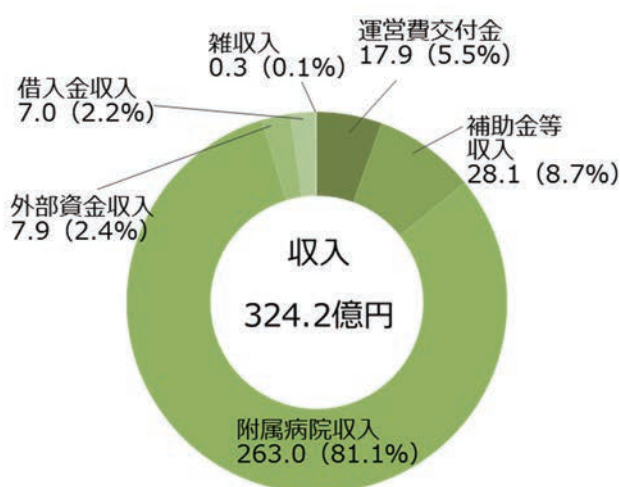
この研究関係経費を常勤教員一人当たり換算すると年間約752万円となります。

附属病院について

附属病院収支が本学の収入に占める割合は約49%、支出に占める割合は約52%であり、その事業規模の大きさからも大学全体の財務運営に与える影響は大きく、健全で安定的な病院経営が不可欠です。

そのため、経営状況についての分析とそれに基づく増収に向けたさまざまな取り組みの実施、物品及び役務契約の見直し等による調達コストの削減など、更なる経営改善に向けて努力しています。

令和2事業年度：収支決算ベース



※ 文部科学大臣の承認を受けるまでは、金額等の変更が生じることがあります。

施設整備

金沢大学における主な施設整備事業

平成 28 年度	<p>グローバル化に対応した教育研究環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (角間) 学生留学生宿舎「先魁」Ⅱ期新営 ・ (宝町・病院) 駐車場・屋外通路環境整備 ・ (宝町) 保健学類 1 号館改修(Ⅰ期) 	 <p>「北溟」(先魁Ⅱ期)</p>	<p>H28.07~H29.03 H26.11~H28.06 H29.03~H29.11</p>
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ (宝町・病院) 中央診療棟手術室改修 <p>学生支援設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (角間) テニスコート改修(Ⅰ期) ・ (角間) 屋外運動場再整備(金沢大学 SOLTILO FIELD) (産学官連携による既存グラウンドの人工芝化) 	 <p>屋外運動場再整備</p>	<p>H29.03~H29.10 H30.02~H30.03 H29.09~H30.04</p>
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「金沢大学インフラ長寿命化計画(個別施設計画)」を策定 ・ (角間) 多目的グラウンド整備 ・ (角間) トイレ機能改善整備(6年計画の1年目) ・ (宝町・病院) 病棟無菌治療室改修備 ・ (宝町) 保健学類 1 号館改修(Ⅱ期) <p>新たなプロジェクトに応じた施設等の計画的整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (能登町) 能登海洋水産センター施設新営工事【能登町発注工事】 	 <p>多目的グラウンド整備</p>	<p>H30.04~H30.08 H30.09~H30.12 H30.10~H31.03 H30.10~H31.05 H30.07~H31.03</p>
平成 31 年度 ・ 令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ (角間) サッカー場クラブハウス新営 ・ (角間) トイレ機能改善整備(6年計画の2年目) ・ (平和町他) 附属学校空調設備取設 ・ (宝町) 学際科学実験センター遺伝子研究施設空調設備改修 ・ (角間) 調整池整備(堆砂槽設置)・市道トンネル上部法面整形 	 <p>サッカー場クラブハウス</p>	<p>R01.06~R01.09 R01.10~R02.03 H31.03~R02.02 R01.07~R02.03 R01.07~R02.03</p>
令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ (角間) ナノ生命科学研究棟新営 ・ (越坂) 能登海洋水産センター別館改修 ・ (角間) 自然科学本館 コンビニエンスストア設置用スペース整備 ・ (宝町・病院) 第 2 立体駐車場新営 ・ (角間) 人間社会 3 号館等空調設備改修 ・ (角間) 基幹・環境整備(橋梁耐震化) ・ (角間他) トイレ機能改善整備(6年計画の3年目) 	 <p>ナノ生命科学研究棟</p>	<p>H31.04~R02.09 R02.01~R02.05 R02.05~R02.07 R02.06~R03.03 R02.07~R03.03 R02.11~R03.05 R02.09~R03.03</p>
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ (角間Ⅱ) 新産学協働研究拠点(仮称)新営 ・ (宝町・病院) 多用途型トリアージ施設新営 ・ (越坂) 能登海洋水産センター別館 1 階改修 ・ (角間) 自然科学 5 号館等空調設備改修 ・ (宝町・病院) 新中央診療棟(仮称)新営 ・ (角間他) トイレ機能改善整備(6年計画の4年目) 	 <p>新産学協働研究拠点(仮称)</p>	<p>R03.04~R04.09 R03.05~R03.08 R03.06~R03.12 R03.06~R04.03 R03.12~R05.08 R03.09~R04.03</p>
令和 4 年度 以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ (宝町・病院) 新中央診療棟(仮称)新営その他 ・ (角間他) トイレ機能改善整備(6年計画の5年目) 		

ガバナンス体制

◆ 教員人事制度

令和3年4月現在

年俸制 平成27年1月1日導入	獲得した競争的資金に係る間接経費の額に応じて、年俸額を加算する等、業績を処遇に適切に反映する仕組みを設けた年俸制を導入（H31年度から新たな年俸制も導入）	年俸制適用教員数 312名 ※全教員の約30%
リサーチプロフェッサー制 平成27年1月1日導入	優れた教員の確保・研究環境の整備のため、リサーチプロフェッサー制（主として研究に専念する教員・「招へい型」「登用型」「若手型」「拠点型（H29～）」の4類型）を導入	リサーチプロフェッサー数 招へい型 2名 登用型 7名 若手型 0名 拠点型 26名
クロスアポイントメント制度 平成27年4月1日導入	他の機関との協定に基づき、本学又は相手機関の職員がそれぞれの身分を保有したまま、本学又は相手機関の常勤の職員として業務に従事できるクロスアポイントメント制度を導入	クロスアポイントメント制度適用教員数 6名

★ 女性研究者支援 ★

研究パートナー制度

子育て・介護中の研究活動支援として、研究データ解析、文献調査等を行う研究パートナーの雇用経費を助成

女性研究者等研究支援制度

女性研究者への研究費補助

女性研究者賞

優れた業績を挙げた女性研究者を顕彰し、研究意欲の向上・育成等を目的に支援

リーダー育成支援

国際シンポジウム開催支援やリーダー育成研修支援を実施

はあぞみ基金

女性研究者支援を継続・発展させるための支援基金を設立

☆女性研究者の割合

18.3%

(特任教員・助手等除く)

☆女子学生（学士）

39.1%

☆女子学生（大学院）

28.4%

令和3年5月現在

鈴木大拙－西田幾多郎記念 金沢大学国際賞

金沢大学国際賞は、金沢大学にゆかりをもつ鈴木大拙と西田幾多郎に因み、臼井滄氏（昭和39年金沢大学医学部卒業）のご篤志を原資として設けられました。本国際賞の目的は、哲学・思想・宗教を中心とする分野で、国際的に卓越した業績を挙げた研究者を顕彰し、当該分野の研究の一層の進展を促すことです。第1回は、日本仏教の基盤にある華嚴思想の研究や、東アジアの大乗仏教の基本的文献である『大乘起信論』の研究と、日本と欧米の研究者の架け橋となっている点を評価し、Girard Frédéric, René, Robert 氏（フランス国立極東学院 名誉教授）に、第2回は、日米2つの文化的背景を活かしながら、「間文化哲学（インターカルチュラル）」における独自の視点を持ち、精力的に研究を展開している点を評価し、遊佐 道子 氏（西ワシントン大学 日本哲学・インターカルチュラル哲学 教授）に授賞しました。また、令和3年度中に同賞の第3回受賞者を選考し、11月に授賞式を開催予定です。



記念講演で講演するジラルル氏



記念講演で講演する遊佐氏



授賞式で挨拶する臼井氏

その他

金沢大学金沢駅前サテライト

金沢駅前における社会人に対する教育の提供、産学官連携、大学の情報発信等に資する場として、平成30年8月に金沢駅前サテライトを設置しました。企業との打合せ、会議等での活用に加え、今後は、社会のニーズに対応した高付加価値学習事業の展開を予定しています。

金沢大学東京事務所

東京事務所は、首都圏における学生の就職活動の拠点、教職員の活動拠点、各同窓会の連絡拠点や交流の場として幅広く利用されています。平成31年4月には日本橋室町3丁目に新築された「日本橋室町三井タワー」の5階へ移転し、首都圏での更なる活動の拡充・情報発信を進めています。

附属図書館

コロナ
対応

令和2年度の新型コロナウイルス対応

- 入館制限：滞在時間は90分以内、体調に不安のある方等は入館禁止、学外者は予約制、学外者は土日祝日や平日17時以降及び試験期間中の混雑時入館禁止
- 入館手続き等：入館時刻の記録、入館時の体温チェック、手指消毒・マスク着用の徹底
- 環境整備：閲覧室座席の間引き、スタジオ・個室の多数利用の禁止、館内での会話を原則禁止
- 新たな取り組み：オンラインによる交流イベントの実施

年間総入館者数は**27万人** 年間総貸出冊数は**7.4万冊**（令和2年度実績）

※69万人（令和元年度）

※12万冊（令和元年度）

蔵書数は**191万冊**（前身校からの貴重な学術専門書が多数）<https://library.kanazawa-u.ac.jp/>

- 来館の利用者（北陸3県在住者）に直接貸出をするほか、公共図書館を窓口とした貸出・文献複写も可能（一部を除く。）
- 学生が能動的に学びあう空間ラーニング・コモンズや日本人学生と留学生の日常的な交流の場国際交流スタジオ・コーナーを全館に設置
- 金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）から、本学教職員の学術成果（論文などのコンテンツ）をインターネット上で世界に向け公開

◆中央図書館（角間キャンパス北地区）

- ・旧制四高時代の貴重資料を含む、人文・社会系の図書や雑誌を中心に所蔵
- ・喫茶「ほんわかふえ。」を設置

◆自然科学系図書館（角間キャンパス南地区）

- ・環境学コレクションをはじめ、理・工・薬学系の図書や雑誌を中心に所蔵

◆医学図書館（宝町・鶴間キャンパス宝町地区）

- ・医学専門の図書や雑誌を中心に所蔵
- ・ブックラウンジに特別支援学校が運営する喫茶「プラタナスカフェ」を設置

◆保健学類図書室（宝町・鶴間キャンパス鶴間地区）

- ・保健学専門の図書や雑誌を中心に所蔵

未来図書館構想「知と創造の学修館」

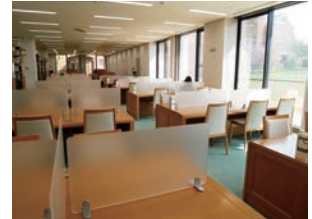
新たな知の集積・知的交流の場として「知と創造の学修館」を整備し、様々な学びの場と多様な利用者に関わった交流スペースを提供、人と人との交流による新たな価値の創出を目指します。

金大図書館時習基金 ※QRコードからアクセスできます。

目的:利用者の利便性・快適性の向上、所蔵資料の保存・活用の継続的実施



コロナ禍中もオンラインで国際交流



感染防止対策をとった閲覧室

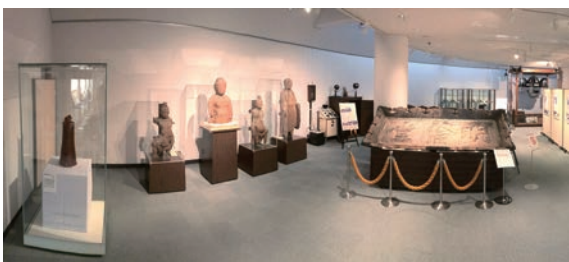


時習基金の
詳細はこちら

資料館

金沢大学の歴史を紹介 博物館法に定める博物館相当施設に指定 入館無料

- 前身校から受け継いだ文化史、自然史、科学技術史にわたる「学術標本」や「金沢大学史料」を収集・公開
主な所蔵品：加賀藩校「明倫堂」「経武館」の扁額（金沢市有形文化財に指定）、第四高等学校の物理実験機器、著名な宗教家 暁烏 敏 氏の陶磁器コレクション等
- 特別展・企画展・出張展覧会等を開催し、学外の博物館等との連携を推進



収蔵資料総数 約 88,000 点

{ モノ資料 77,000 点 文書資料 11,000 点 }

開館時間 平日 10:00～16:00

入館者数 2,518 人（令和2年度）

※ 7,250 人（令和元年度）

累計入館者 107,138 人（令和3年3月末時点）



常設展示紹介
動画はこちら

同窓会

金沢大学学友会とは

全国と世界に広がる金沢大学学友会

目的：基幹同窓会を中心とした全国的交流と連携を推進する

ことにより、卒業生相互の交流と親睦を図り、併せて大学との連携及び大学の教育研究活動への支援を行い、大学の発展と社会に貢献します。

設立：平成 23 年 11 月

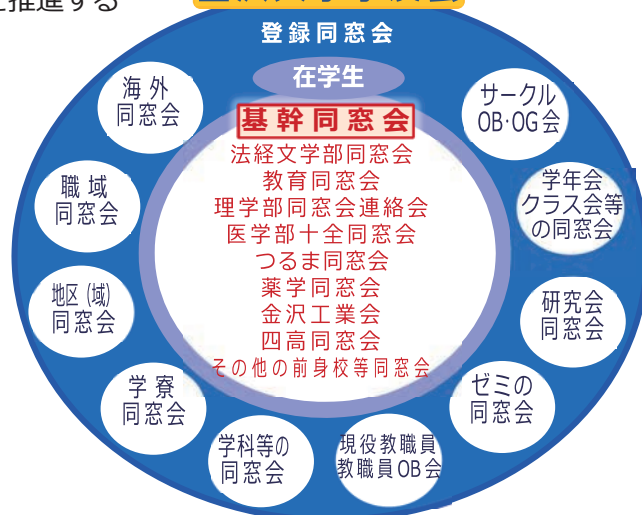
登録団体数：合計 39 団体

基幹同窓会 8 団体

登録同窓会 31 団体（海外同窓会含む）

※令和 3 年 5 月 1 日現在

金沢大学学友会



ホームカミングデイ

本学では、卒業生・修了生に再び母校を訪れてもらう「ホームカミングデイ」を毎年開催しています。

◆第 14 回ホームカミングデイ（令和 2 年 10 月 31 日開催）

式典参加者：44 名（うち学外者 25 名）【新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、縮小開催】

◆第 15 回ホームカミングデイ 開催日：令和 3 年 10 月 30 日（土）（予定）

金沢大学基金

金沢大学基金

平成 20 年 3 月、本学の学生修学及び教育研究等に係る各種事業を支援することにより、我が国の学術・文化の発展に資することを目的に設立しました。

修学支援基金

平成 28 年 8 月、学生が経済的な理由で修学に困難を来さないよう支援することを目的に設立しました。

金沢大学カード

平成 28 年 4 月、ご利用に応じて得られる手数料収入の一部が金沢大学基金に寄附される、金沢大学カードを導入しました。



課外活動振興基金

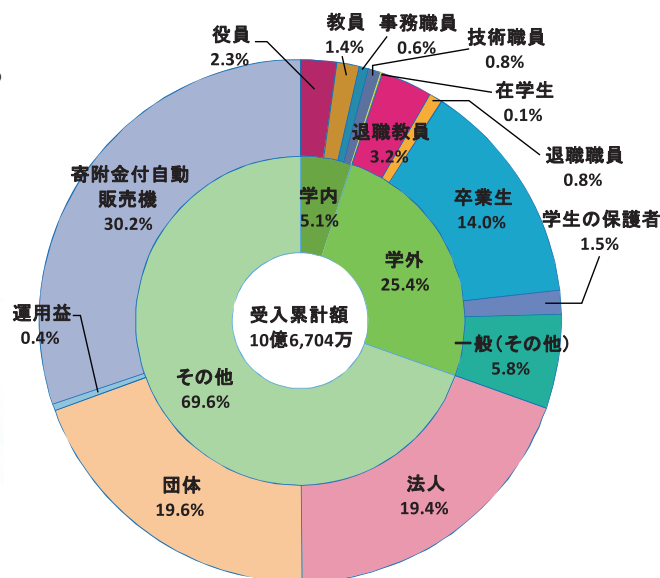
平成 30 年 4 月、サークル活動を支援する目的で設立しました。

<支援の事例>

■ 学生の国際交流支援事業

学生の海外派遣，受入（修学支援基金を含む）

年度	項目	人数	金額(万円)
25～30年度 (平均値)		2,475 (413)	22,882 (3,814)
令和元年度		563	4,528
令和2年度		148	1,333
計		3,186	28,743



新型コロナ対策

■ 「緊急学生支援金」事業

コロナ禍による家計急変等の困窮学生へ支援

令和 2 年度 996 人

総額：4,980 万円

コロナ
対応

私たちの金沢大学 2021

